



一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田 1-6-3 フェリオ西早稲田 301 号
〒169-0051 TEL:03-3204-0595 (FAX 兼用)
E-mail:gsj20@m7.dion.ne.jp URL:https://nitteikyou.org
発行者:会長 高橋 康夫
編集者:広報委員長 小沼 康子
題 字:上原 敬二
発行日:2024 (令和 6) 年 1 月 1 日



二子玉川「帰真園」の柔らかな曲水を俯瞰したもの 2015.8.1 筆者撮影

皆様 新年おめでとうございます
本年も実り多き年でありますよう
祈念いたします

世界は日本庭園を待っている

戸田 芳樹
とだ よしき



1947年生まれ。尾道市出身。東京農業大学造園学科卒。東京・京都で庭修行の後、1980年(株)戸田芳樹風景計画を設立。東京農業大学・千葉大学元客員教授・非常勤講師。1994年修善寺「虹の郷」で造園学会賞。著書「日本庭園を読み解く」「昭和の名庭園を歩く1・2」。愛読書「茨木のり子の詩、吉田秀和の評論。座右の銘「継続は力なり」。日本庭園協会に入って日も浅いが、日本庭園の素晴らしさを広め、次世代に伝えていきたい。

コロナもほぼ明けた昨年は人々の活動が活発になり、海外との交流も盛んであった。5月に目黒八芳園で開催されたポートランド日本庭園の祝賀会は大変盛会であった。主賓の高円宮妃久子殿下に御臨席賜り、代表のステイブン・ブルーム氏のスマートな進行は、日頃接していた日本流とはかなり違い、和やかな雰囲気が出された。ゲストに経済界の要人を迎えるなど、戦略に基づいた財政基盤がしっかりと根付いていることがうかがえた。会の持つ開かれた空気感とコミュニティケーション術が人々の共感を得たのは誰もが理解できたと思います。

秋、11月15日(19日)には、世界のランドスケープアーキテクトの組織であるIFLAのAPR大会(アジア・オセアニア)を東京二子玉川で開催、会場とリモートに合わせて1000人ほどのランドスケープアーキテクトが集った。中心となって活動したのは40代から50代、さらに各国の学生もワークショップに参加し、女性の活躍が目立った会でもあった。

多くの教訓を得たが、ポートランドから来たゲスト、ドーン内山氏は「ランドスケープは見るだけの芸術ではなく、心を豊かにするインナーランドスケープが重要」と。また、タイの若者ヨサポン氏からは「都市で必要なランドスケープを多発的、自立的に始めたい」と、具体的な事例を示したメッセージをいただいた。「鳥の目と虫の目」の両方の視点で都市を改革するバンコクのパワーと、自分自身を静かに見直すことの重要性、これらを同時に学べたのは収穫であった。

日本庭園が持つ内省的な美しさは世界の人々の知るところとなり、トルコやインドからも本物の日本庭園をつくってもらいたいとの誘いもある。成熟した日本文化の新たなジャポニズムが始まる気配さえ感じる。私たちがその気配を受け止めて、応えるには発想の転換が必要だろう。庭園のつくり手としての一方通行から、総合的な文化の担い手にならなければいけない。アメリカのポートランドでは既にスタートが切られているのだから。

(正会員)

新年のご挨拶

庭と空とビル そして造園家

会長 高橋 康夫
たかはし やすお



1950年生まれ。東京都小金井市出身。東京都建設局で公園・庭園・植物園事業に携わる。長岡安平翁、井下清先生は大先輩。好きな本…龍居竹之介著『日本の庭こぼれ話』

皆様 新年あけましておめでとう
ございます。

今年はコロナ禍が収束して最初の新年です。不安を抱えた昨年とは異なり、晴れやかな気持ちで新しい年を迎えることができたこと、心よりお喜び申し上げます。

さて、2020年初頭に発生した新型コロナウイルスは、2023年5月に2類感染症から5類感染症に移行し、一応コロナ禍は収束したとされました。その結果、日本庭園協会（以下、庭園協会）の事業も徐々に平年並みに展開することができるようになりました。

昨年の事業では10月26日に開催した臨時総会で「清澄庭園を国指定名勝に推挙する決議（主旨）案」と「日比谷公園を国指定名勝に推挙する決議（主旨）案」が承認され、庭園協会がこれらの庭園・公園の文化財的

価値を高く評価することを世に問う第一歩となりました。庭園協会の目的は、日本庭園がもたらした庭園文化を継承・発展させることであり、会費のみで運営している庭園協会だからこそできる提案だと確信しています。

また、昨年は協会創立105周年の年であり、臨時総会の後に記念式典及び祝賀会を庭園協会ゆかりの清澄庭園大正記念館で開催しました。長く庭園協会を支えていただいた永年会員や役員の方々を表彰するとともに、全国から参集していただいた会員の皆様と105年続いた協会の歴史を振り返りました。盛大かつ和やかな祝賀会会場には、協会の未来につながる熱気が溢れていました。

ところで、昨年の夏は猛暑日を22日記録するという異常な暑さでしたが、その酷暑の真夏に久々に奈良の平城宮東院庭園、慈光院、依水園などを訪ねました。都立庭園を見る機会が多いので、庭園の周囲には高層ビルがあるのは当たり前と思っていたのですが、奈良の庭園にはビルの影が無いのです。遮蔽の樹木もなく、池には青空が映り、近くの山並みが借景となった庭園の景色を眺め

ていると、やはり庭園にはビルが無いことがいけば良い、などと当たり前のことに気づかされました。

さらに、帰宅して気が付いたのですが、なぜか心が軽やかでストレスを忘れていたのです。それはなぜだろうと思案したのです。日本で最初のビルといわれる丸ビルができたのは1923（大正12）年で100年前です。すなわち、西暦元年から約1900年間は、人々はビルを知らずに大きな空を無意識のうちに毎日見ていたのです。広い空を見ていたDNAを有する現代人にとって空を狭くする超巨大なビルの壁は知らず知らずのうちにストレスになっているのではないのでしょうか。

そこで思い浮かべたのが、龍居竹之介名誉会長が茶道誌『遠州』で連載している「今昔庭の味わい第45回」の「空を恋する庭の声」です。

東京も昔は空と庭が握手していたのに都市化により空と庭のつながりがすっかり霞んでしまった、という

ことを述べておられ、最後に旧芝離宮恩賜庭園と日比谷公園の現状を踏まえて「これでは庭と空の握手どころか関係は逆に遠のくばかりではありませんか。ここは一つじっくりと、空を恋する庭の声、庭を愛する空の声をみなさんにも聞いていただきたいところではありますね」と結んでいます。

「庭と空とビルが仲良くするにはどうしたら良いのか」その答えを今の造園家は求められています。



依水園 2023.8.13 筆者撮影

新年の挨拶・19支部より

北海道南支部・支部長

桃井 雅彦
もらい まさひこ



1961年生まれ。北海道函館市出身。1979年より家業（桃井造園）に入り、1986年より代表、現在に至る。好きな庭…毛越寺庭園。

寒く、厳しい季節、今函館は一面の白い世界です。昨年は異常気象なのか函館も夏に暑い日が続き、身体が慣れていないせいか大変な暑さで、本州の方々はこれよりさらに暑い環境で仕事をされていると思うと感心致します。この異常な気候がこれからは例年の気候になっていくのだろうかと思うとぞっとします。

気候の変化に伴い樹木の生育の仕方が変わり、昨年は道南の日本海側の地域でもナラ枯れが5例確認されました。道南の山はミズナラの木が多いので、これがこれから広がると植生がだいぶ変わっていくのではないかと心配しています。ナラ枯ればかりでなくアメリカシロヒトリが越冬して大量発生しています。このまま暑くなるとマツノザイセンチュウやチャドクガなどの今までは本州でしか生育できなかった害虫が越冬できるようになるのも近い将来のことかなと思うこの頃です。気候変動で

今までとは違った地元の景色・風景を良しとするのか、それとも何とかしなければとするのか、私個人では何ともなりません、次の世代の人たちの見る地元の原風景はどのようなものになるのでしょうか。その原風景から生まれる庭はどのような庭になるのかと心配しています。最後になりますが、会員各位のご活躍をご祈念申し上げます。

宮城県支部・副支部長

横山 英悦
よこやま えいえつ



1952年生まれ。山形県出身。現在は宮城県角田市曹洞宗長泉寺の専属庭師。

新年のお慶びを申し上げます。

昨年9月16日に東日本大震災復興記念庭園（以下、復興記念庭園）において本部の鑑賞研究委員会（内田均委員長）主催による庭園見学会がおこなわれました。宮城県支部ではそれに伴い、4月から5月にかけて未整備だった法面整備をおこない、崩れ石積（高さ4m・延長30m）を完成させ、ご来園をお待ちしました。見学会当日は加藤精一総務委員長の野点による煎茶点前があり、さらながら園遊会のような雰囲気となり、ご参加なされた皆様には大変好評をいただきました。また、同日夕刻に

支部主催による「復興記念庭園開園5周年記念祝賀会」を開催。5年間にわたり庭園維持管理に協力していただいた近隣のボランティアグループの皆さんの労をねぎらいました。新年度の事業としては春と秋に市民参加による復興記念庭園の見学会と池の排水路整備（野面石積50m）講習会を計画しています。

栃木県支部・支部長

清水 一樹
しみず かずき



1989年生まれ。栃木県出身。植籾加藤造園株式会社（京都市）にて修業後、株式会社清水造園（宇都宮市）入社。現在に至る。

初春のお慶びを申し上げます。

当社の近くに、旧帝国ホテルに使われた「大谷石」の産地があります。今でこそ少なくなりましたが、少し大きなお屋敷には、必ずと言っていいほど大谷石造りの蔵があり、石塀や、長屋門がありました。やわらかく温かみがあり「ミソ」とよばれる茶色の斑点や空洞があるユニークな大谷石は、かつては建材として広く利用されてきましたが、現在は産出量も減り、大谷地区も寂れました。しかし近年、地下採掘場の跡地が「神秘的な空間」として注目され、観光地としてよみがえりつつあります。

す。大谷石は切石が中心のため、お庭では敷石や縁石などに利用されますが、かつては自然石を景石として利用することもあったようです。現在も国指定名勝「大谷の奇岩群」では、露頭石の独特の景観を目にすることが出来ます。「陸の松島」と「地下神殿」の異名をとる、大谷にぜひお出かけください。本年も会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

茨城県支部・支部長

飛田 幸男
とびた ゆきお



1947年生まれ。茨城県水戸市出身。23歳で造園を志し、7年間京都で修業。32歳で独立し、現在、株式会社植幸会長。時々思い出す庭…大徳寺高桐院の東南（モミジ）の庭。

あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が明けたとはいえ活動は鈍く、また社会の動きもさっぱりです。

例年秋に茨城県造園技能士会と協賛で技能講習会を開催しています。11月、古平貞夫氏（茨城県造園技能士会会長・日本庭園協会評議員）による崩れ石積の講習会を造園科のある茨城県立石岡第一高等学校にて開催しました。ここは毎年、技能検定試験会場になるところで、在校生や先生ばかりでなく技能検定試験受講

予定者も講習会の見学ができ、有意義な場所になっています。

近年、茨城県のみならず日本全体で人手不足が問題になっています。また、後継者問題も深刻で、廃業する造園業者が目立ってきました。12月、茨城県造園建設業協会は、偕楽園で茨城県立水戸農業高等学校の生徒を対象にウメの剪定講習会を企画しました。これは生徒たちに名勝庭園偕楽園を知ってもらうことやウメの剪定体験により造園が好きになり、将来この職業に就いてもらえればということ、毎年開催しています。この講習会の様子はNHKや新聞社などで取り上げられました。



新潟県出身。2003年、みづばち造園設立。

埼玉県支部・支部長 山田 祐司

あけましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年はコロナ明け久々の技術研修会として穂垣研修会を3日間の日程でおこないました。

参加者の皆さんと作業工程を確認しながら完成に向けて熱心な研修会をおこなうことができました。

梅雨時期でしたので天候も心配されましたが、その心配をよそに3日間とも強い陽射しの中での研修会となりました。じっとしていても汗が止まらないほどの暑さの中、参加者の皆さんの作業に没頭している姿に改めてものづくりの楽しさを感じさせていただきました。実際に作業に手を出して一生懸命に打ち込んでいる中に技術の習得があり、完成した時の喜びを皆さんと分かち合えた、とても充実した研修会になったと思います。

今年もまた新たな研修会を企画したいと思いますが、習得した技術や経験の一つ一つが参加者それぞれの新たな庭へつながる一助となるよう、魅力的な活動をおこしていきたいと思っています。



1967年生まれ。東京都国立市出身。(株)植繁代表取締役。好きな庭…雑木の庭。

東京都支部・支部長 鈴木 康幸

みなさま、明けましておめでとうございます。日頃は東京都支部の活動にご協力くださり、ありがとうございます。

昨年は支部長2年目の年。一昨年から続けている庭園バスツアーも開

催でき、また今年、南アルプスを目指すという野望を掲げ奥多摩方面に登山を定期的におこないました。残念ながら私は左足の半月板損傷でドクターストップがかかり、参加していませんが、治りしだい参加しようというハビリを急ピッチで頑張っています。新しい仲間もできてそれは充実した一年でした。

本年も充実した一年を送れるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

話は180度変わりますが、11月に福島原発の見学に行きました。放射線量も歯医者レントゲンと同じか、それ以下の量まで戻っていました。防護服も無しで大丈夫でした。帰還困難区域往復40kmを東京電力のバスで走りました。人っ子一人いない風景、12年前で時が止まった風景。違うのは雑草だらけになったこと。造園は風景をつくる仕事です。帰還困難区域の風景を現在の形に戻せない自分もどかしかったです。原子力は現代では必要不可欠ですが、やってはいけないことを起こしてしまった東京電力さんに憤りを感じている毎日です。



1972年生まれ。神奈川県横浜市出身。鎌倉で庭を学び27歳で開業。鎌倉・松原庵庭園、横浜・長生寺庭園、東京・感通寺庭園の作庭。国際バラとガーデニングショウに数回出展。フランス日本庭園協会・名誉会員。

神奈川県支部・支部長 米山 拓未

新年明けましておめでとうございます。

ようやく平穏な日常に戻り、安心して支部活動を再開できるようになりました。

神奈川県支部としては、今年も講習会の開催を予定しており、庭を職業として志す若い世代にもSNSで独自に過去の講習会を動画配信して、この仕事の魅力をアピールしていきます。

また、講習会の内容も若い世代からベテランまで心躍るような内容を企画しますので、全国からの参加者をお待ちしております。

さて、私の個人的な活動ですが、不安定な世界情勢の中、海外の庭のイベントに出展して庭を通して世界平和に貢献していきたいと決意しております。

平和が訪れ、人々が愛のある日々になると切に願うばかりです。

新潟県支部・支部長

小林 紀昭 こばやし のりあき



1958年生まれ。新潟県出身。大学卒業後、地方公務員勤務。14年後、妻の実家の造園業に入る。7年後、(有)創風苑を立ち上げ、現在に至る。好きな庭…桂離宮。

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新潟県支部で庭園技藝を開催いたしました。講師は創造園の越智将人氏にお願いしました。お忙しい中新潟までお越しいただき事前準備をおこない、技藝では5日間滞在していただきました。内容は、版築・たたき・洗い出し・植栽・石の割り方等多岐にわたった研修会でした。参加者の年齢も若い人が多く、有意義な研修会になったと感じました。このような講師を呼べることも日本庭園協会に入っているからこそ実現できたものと感謝しております。

また、昨年より貞観園の剪定について若い技術者を育てるべく活動をおこなっています。後世に良い形で貞観園を残していくための基盤づくりをしています。さて、コロナも終息に近づき始め、経済が大きく動き出しております。

今年は皆様にとって、素晴らしい年になりますことを御祈念申し上げます。

石川県支部・支部長

宮本 広之 みやもと ひろゆき



1958年生まれ。石川県津幡町出身。大学在学中より愛知県稲沢市にて樹木管理を体験。卒業後家業を手伝い父親の後を継ぐ。好きな庭…兼六園、山崎山からの新緑風景。

明けましておめでとうございます。

昨年、当支部では複数人の働き盛りの新入会員に恵まれ、講習会や研修会を開催することができました。

私自身が講師を務めた会では思わぬ質問攻めに遭い、練っていた講習内容が崩壊することに…久々の行事開催の充実感に浸れました。

研修旅行にも出かけることができました。山梨県で田中徳夫氏にご案内をいただき、参加者は良い刺激をいただいて来しました。次につながる旅だったと思います。

アンケートや先輩のアドバイスを参考に今年の行事内容を選定していくこととなりますが、今の時代に即した内容も大事ですし、庭師として持ち合わせてほしい技能にも時間を取りたいという想いは様々あります。

本年度は、感染症に留意しながら「より良く集える支部」を目標に活動をしていきたいと考えております。

最後に本会の弥栄と皆様のご健勝を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

愛知県支部・支部長

高見 紀雄 たかみ のりお



1969年生まれ。刈谷市出身。

新年あけましておめでとうございます。

本年も相変わらず支部長を務めさせていただきます。

昨年は支部長の役に10年以上就いているということで表彰していただきました。

ただ愛知県支部発足後は家庭の事情もあり、支部長会議にも欠席ばかりでとても貢献しているとは言えず、ましてや近年はコロナ禍で活動自粛もありました。

当初は辞退を申し出たのですが、高橋康夫会長からも熱い言葉をいただき、恐縮ながらお受けいたしました。ようやく公私とも安定してきて、これから貢献しなければいけないと思っていたところでしたので、先に手付をいただいたと思います努力していきます。

支部の活動では、四国支部の方々に見学会でお世話になりました。庭の迫力のもとより、越智将人氏の熱量・技能の継承への努力には大変感動いたしました。

また名古屋三越の屋上では「てつ

ぺんの坪庭展」という実行委員会を立ち上げ、庭師たちによる庭展をおこないました。おにわさん(日本庭園を紹介するインフルエンサー)とのトークイベントでは、庭業界の未来、庭師の問題点などを指摘していただきました。今後も意見交換など積極的におこない、日本庭園の啓蒙活動をしていこうと思います。

5月にはオンラインによる庭園技術連続基礎講座の講師をさせていただきました。その内容について、龍居竹之介名誉会長から直々にお褒めの言葉をいただき、感激で胸が熱くなりました。

今年3月には四国支部会員を招き見学会をおこないます。多分、坪庭展もどこかでおこなう予定です。

本来の私は自分のためには怠け者です。人のため、庭業界のために自分が必要なければいけないと感じる衝動こそが行動力になっているようです。そういうことですので、本年もよろしくお願い致します。

近畿支部・支部長

山田 拓広 やまだ たくひろ



1964年生まれ。京都市出身。近年は各国での園芸博覧会開催を通して、造園緑化の楽しみ、必要性をお伝えしています。好きな有名人…ローリングストーンズのコンサートが楽しみです。

令和5年5月に京都で開催した支部長見学会には多数のご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。近畿支部では久しぶりに新入会員をお迎えし、今後も簡単な見学会など、徐々に開催していこうと考えています。

どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

岡山県支部・支部長 みやけ ひでとし 三宅 秀俊



1950年生まれ。岡山市出身。1971年独立開業。個人庭園を中心に作庭。

謹んで新年の祝詞を申し上げます。昨年は日本庭園協会創立105周年を迎えまことにめでとうございます。また、龍居竹之介名誉会長念願の清澄庭園および日比谷公園を国指定名勝に推挙することが決議されました。実現することを願っております。

昨今、大変気になることですが、急激な変化になっている、少子化の問題はいろいろな問題として大きくなって行く気がしてなりません。

日本庭園協会においても良い年になりますことをお祈りいたします。

広島県支部・支部長 ふじわら しのぶ 藤原 忍



1963年生まれ。笠岡市出身。22年間、造園会社に従事し、独立。以来約20年間、作業園を営んでいます。好きな庭：すつきりとして当家に気に入られる庭。

2024年、明けましておめでとうございます。

広島県支部の会員は、現在8名です。なかなか、コロナ禍の関係で集まり行事などができていませんが、今年の秋ごろから、いろいろとおこなうことができると思います。

私事でありますが、現在、約50軒のお宅で庭の手入れをさせていただいています。それ以外は、当社工事や他社からの応援での現場で、作業内容は様々ですが、緑の大切さいろいろな所に広げていきたいと思っています。

鳥取県支部・正会員 たみや しんじ 田宮 慎二



1984年生まれ。好きな場所：大江山頂から見る御来光。入社年月日：2014年10月1日

新年あけましておめでとうございます。

約3年間にも及ぶコロナ禍を経てようやく明るい兆しが見えて参りました。

明るい話題の一方で、昨年から導入されましたインボイス制度や、物価高による資材等の高騰など頭の痛い問題も多く、造園業界や弊社のような樹木生産・卸業界にも暗い影を落としております。

相変わらず公共工事等は減少傾向ですが、ここ数年は、個人邸での需要が増えております。コロナ禍での外出制限の中、家で過ごす時間が多くなり、そこに癒しと安らぎが求められているのではないのでしょうか。人々の暮らしをより一層豊かなものにするために、庭、その空間を彩る植物たちが重要な役割を果たすことは間違いありません。

顧客のニーズも時代により変化致しますが、今後も日本庭園協会の皆様のより良い庭づくりのお手伝いできればと考えております。本年もよろしくお願い致します。

四国支部・支部長 せんば たろう 仙波 太郎



1975年生まれ。愛媛県出身。地元大学を卒業後、勉強のため京都へ6年間の修行。地元へ帰り、家業に従事。現在は(株)仙波農園代表取締役。興味のある人：岡本太郎、ブルーノ・タウト

新年あけましておめでとうございます。

昨年の8月より支部長を仰せつかりました。四国支部の歴代の支部長はすばらしい方々ですので、とても身の引き締まる思いです。

コロナ禍により、支部活動も控え気味となっておりますが、状況を見ながら活動を再開しております。

昨年9月には、愛知県支部主催の愛媛県庭園見学研修会に四国支部も合同で参加させていただく形となりました。名勝指定となった大洲の臥龍山莊庭園や、越智将人氏の作品および四国支部会員の作品見学という内容です。各支部との情報交換や親睦を深めることができ、とても有意義な2日間を過ごすことができました。

「次は是非、愛知に」とお誘いをいただき、3月に庭園見学研修を予定しております。こうした支部間のやりとりにとってもよい繋がりを感じております。

四国支部は現在、香川・愛媛・徳島、3県の支部会員により構成されております。新年改めて、会員のための運営を心がけます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

浅草寺・伝法院庭園における修復工事について

2023年6月6日 緑と水の市民カレッジ

藤元裕二
ふじもと ゆうじ

今日は「浅草寺伝法院庭園における修復工事について」と題してお話をいたします。今まで皆さんが聞いたことのあるお庭の講演とは少し違うお話ができると思います。

1 浅草寺の概要

浅草寺は雷門のあるお寺です。「金龍山浅草寺」と言います。東京都台東区浅草に伽藍を構えており、本尊は聖観世音菩薩です。本尊は誰も見たことがないという秘仏です。

元々は延暦寺を本山とする天台宗ですが、第二次大戦後に聖観世音宗として独立して、浅草寺だけで宗門を立てています。と言っても仲たがいしたわけではなくて、浅草寺の基本的な宗旨は天台宗です。今でも、浅草寺の若いお坊さんは延暦寺に行

って修行しています。

浅草寺は1400年ほどの歴史があります。西暦628(推古天皇36)年に隅田川で漁をしていた漁師の兄弟が仏像を拾い上げます。漁師は何かわからないものを拾ったと思い、すぐに川に戻してしまいます。戻すとまたかかる。これは大変なものかもしれないと思い、地域の豪族に見せたところ、観音菩薩というすごい仏像であるとわかり、お祀りしたのが浅草寺の開創です。その後、645(大化元)年に本尊は秘仏になり、今日に至っています。

857(天安元)年に、慈覚大師円仁(註)が関東にやってきて、秘仏だとさすがに一般に拝みにくいために「お前立ち(秘仏の代わりに人々が拝むための像)」をつくり、そして版木に彫り、版画として観音菩薩の姿を広めました。

浅草寺は歴史が長いだけに頻繁に焼けます。本堂は約20回焼けています。焼けては建て直しを繰り返しています。その資金は関東の庇護者が出すことも多く、例えば源頼朝、足

利尊氏、後北条氏、徳川家などの援助を受けました。

浅草という三社祭があります。「三社」とは浅草寺の観音像を拾い上げた漁師の兄弟と豪族の3人を指し、彼らを神様としてお祀りしているのが浅草神社で、3柱を慶賀するのが三社祭です。1312(正和元)年に始まり、今日まで700年以上続いています。

江戸時代になると、浅草寺は徳川家の大きな庇護を受けます。1590(天正18)年に徳川家康は増上寺などいくつかの寺を祈願所としました。その一つが浅草寺です。二代秀忠や三代家光が奉納した絵馬が伝わっています。

浅草寺の主要伽藍は1649(慶安2)年に家光が復興します。

浅草寺は「徳川の寺」という面だけでなく、大衆芸能と大変密接な関係のある寺です。



図1 歌川広重「浅草金龍山」『名所江戸百景』の中の1枚 1857(安政4)年 国会図書館デジタルコレクション

例えば、絵馬「狂言猿若の人形額」があることからわかる通り、芸能の町として浅草は栄えていきます。歌舞伎あり、芝居あり、大道芸あり、という楽しい場所でした。その楽しい場所はよく浮世絵に描かれます。浅草寺で一番知られている浮世絵は、歌川広重の名所江戸百景「浅草金龍山(図1)」です。手前に雷門の提灯が懸り、仁王門と五重塔を見るという構図です。この名所江戸百景は、安政の大地震で被害のあった江戸の町が復興していく姿を描いたものではないかと言われています。浅草寺でも安政の大地震(註)で五重塔頂部の相輪が曲がりました。曲

藤元裕二プロフィール



浅草寺の学芸員。美術工芸品の専門家。庭園は専門外であるが、伝法院庭園の補助金事業をスタート前から終了まで担当。



図2 楊州周延「東京名所之内吾妻橋真景」三枚続の内左絵と中絵
1888(明治21)年 浅草寺提供

一般に上地されると
経済的には厳しい状況
になります。浅草公
園には「六区」のよう
に繁華街もあり、人出
が戻り復活していくと
いう具合です。

浅草という街は、新
しいものを受け入れる
街でもあります。

浅草寺の東側を流れ
る隅田川にかかる吾妻
橋は、1774(安永
3)年に架橋されまし
たが、頻繁に流されま
した。1887(明治
20)年に鉄橋として架
橋された吾妻橋の浮世

絵があります。1888(明治21)
年、楊州周延画「東京名所之内吾妻
橋之真景(図2)」です。

これには、奥に浅草寺の本堂、五
重塔、仁王門が見えます。そのほか
富士山、実は張りぼての富士山が見
えます。1887(明治20)年に浅
草の六区に作られた人工富士山で
す。2年後に暴風雨ではほぼ全壊しま
したが、この2年の間、有料で見せ
たことで興行として大成功だったよ
うです。

五重塔は1945(昭和20)年の

空襲で焼けました。現在の五重
塔は1973(昭和48)年の再
建です。今はその奥にスカイツ
リーが見えています(図3)。

浅草寺には塔やタワーがつき
ものでした。明治時代に浅草公
園六区に「凌雲閣」という建築
が造られました。雲を凌ぐ高さ
のタワーの意です。浅草の繁栄
を象徴するランドマークタワー
で、12階建てです。通称「浅
草十二階」と言われました。1
923(大正12)年の関東震災
で大ダメージを受けて取り壊さ
れ、今はありません。

浅草は浅草寺の本堂など主
要伽藍が焼けなかったので、割
に早く震災復興しました。仲見

世もすぐ元通りになっていきます。
しかし、第二次世界大戦末期、昭

和20年の東京大空襲で伽藍はほぼ全
焼しました。わずかに残ったのが、
伝法院、浅草神社と二天門などです。

戦後、だんだんと復興していき、
浅草寺の今の本堂は東京オリンピッ
クが開催された年の1964(昭和
39)年に出来上がります。

2 伝法院の概要

伝法院は「でんぼういん」と読み
ます。「伝法」とは仏教用語で、師匠



図3 西池 園路より東を見る (施工後の特別公開時撮影)浅草寺提供

から弟子に教えることを意味
しています。

伝法院は浅草寺の「本坊」です。
浅草寺は複数の支院から成る大きな
お寺です。現在24の支院がありま
す。そのような大きなお寺には、支
院を統括する場が必要です。法務、
寺務、あるいは接客などに利用され
る空間が「本坊」です。

私は浅草寺に勤めて10数年になり
ますが、浅草寺は昭和20年の空襲で
全焼したというイメージがありまし
た。美術工芸品を扱う学芸員として

浅草寺に入ったときは、ほとんど何も残っていないのではないかと思っていました。実はたくさんありました。それは本坊が残ったからなのです。本坊である伝法院は倉庫の役割もありました。本堂は焼けてしまいましたが、本坊が焼け残ったから文化財が今に残ったのです。不幸中の幸いでした。

浅草寺の「本坊」は中世には存在していません。かつては「大木屋」、「観音院」、「智楽院」などと呼ばれ、元禄年間頃から伝法院と呼ばれるようになりまし。その伝法院に付属する庭が「伝法院庭園」です。です

から建築物と庭とがセットになっていると思ってください。庭を単体で見るとではなく、本坊伝法院の建築と複合的に考えるのが前提です。

浅草寺蔵「浅草寺境内総絵図」という、1693（元禄6）年に描かれた詳細な図面があります。当時、浅草寺は天台宗に属します。江戸におけるトップの天台宗の寺は上野寛永寺で、浅草寺は寛永寺の末寺に組み込まれていました。その時代に政治的な意味もあつて浅草寺の土地の様子を把握するために描かれた地図です。非常精度が高いのです。



図4 「浅草寺境内総絵図(部分)」元禄6年(1693)
浅草寺蔵 東京都指定文化財

見てみましょう。伝法院は、境内の南西に位置しています。池だけ見ると、池は北側の「北池」と西側の「西池」にわかれます。そして、北池の真ん中には「経が島」という島があり、北池と西池の間を水路「溪流部」が繋ぎます。これが基本的な構造です。「浅草寺境内総絵図」以降の近代までの絵図、浮世絵、写

真などから勘案しますと、伝法院庭園の構造は、江戸時代前期から現在に至るまで、ほぼ同じであったと推定されます。

伝法院は江戸時代においては将軍や輪王寺宮が御成する特別な場所であり、そこに付帯する庭園もまた「秘園」でした。明治になり「公園」として伝法院庭園も東京市により公開されましたが、第二次世界大戦後によくやく土地問題が解決し、再び「秘園」となり現在に至っています。

2011（平成23）年に国の名勝に指定されました。通常、文化財の指定は、市区町村→都道府県→国と段階的に上にいくのが基本ですが、伝法院庭園の場合は台東区・東京都が無く、直に国の名勝に指定されました。区や都の文化財庭園としての整備がなされなかったため、文化財庭園としての整備はゼロスタートだったのです。実はそのことが修復していく上での課題でした。

3 伝法院庭園の修理の概要

伝法院庭園は2011（平成23）年9月21日に名勝指定されました。指定されるに際して、何をもって価値があるかという判断がなされます。その指定説明を読みますと、（上略）二つの池泉および双方を結

ぶ溪流風の池泉を中心として、（中略）多彩な景が展開する造園意匠は優秀である。それは、江戸幕府の祈願所であった本坊の池泉庭園として貴重であり、芸術上、鑑賞上の価値は高い。よって名勝に指定し、保護を図ろうとするものである。

ここから言えることは、浅草寺伝法院庭園の価値とは、「寺院庭園」であることが非常に大きいのです。

お寺の庭、本坊の庭であることが前提としてあり、かつ大枠において「池泉・溪流」という雄大な空間構成である。そして部分に目を向けると「造園意匠」も優れている、それぞれ貴重であるから残していこうというのが指定説明です。

指定文化財の価値の基準は、指定日の状態にあります。従って、文化財に指定された後の修理は、下手をすると文化財の価値を損なう行為になりかねないのです。

浅草寺の庭園は他の文化財の指定を受けてきませんでした。したがって指定時において、文化財的な修復を経たおらず、文化財庭園として不適当なところが相当にあったのです。そこで、まず何を行うかという、修理に先立って修理の方針を慎重に定めなければいけません。つまり寺の好き勝手にやってはいけないとい



図5 「伝法院庭園平面図」 『日本庭園史体系』 1936

〈修理方針の検討〉

行政と専門家、そして所有者（浅草寺）によって、この庭園の修理方針を決めていきます。修理の指針となる『名勝伝法院庭園保存管理計画書』という計画書を作成します。その指針の基本としたのが重森三玲（註³）が監修した精密な図面（以下、重森図）で、一つのよりどころにしています。その重森図（図5）の状況を目指しながら、現在の状況とマッチした整備を行っていきます。

さらに、将来的に公開を考えると、不良なところ、安全面で問題のある場所などを重点的に整備していくこととしました。

重森図をよく見ると、北池、西池、接続部、そして経が島、本坊など非常に正確な描写です。樹木の一つ一つの名前まで記されています。また、護岸の石も精密に描かれています。

文化財庭園として修理するにあたってこの重森図を根拠として進めました。しかし、この重森図が作成された当時が良い庭園であったのかは、また別の問題です。

およそ指針が決まり、次はいよいよ

よ修理の実働です。国庫補助事業による整備は、2014（平成26）年度から令和4年度まで9カ年度かかりました。

この事業は、9カ年事業として一気にやるのではなくて、1カ年度ごとに清算していきます。年度ごとに補助金の申請をして、補助金をいただき、それを年々に積み上げていったのです。

かつ、修理を複雑にするのが、実は本坊建築です。2015（平成27）年度に、本坊建築は重要文化財建造物に指定されました。つまり、名勝庭園の上に重要文化財建造物がのっている状態です。この状態は行政書類の山を作ります。本坊建築も、建造物としての修理事業が始まり、庭は庭で直しています。それぞれ別の事業ですので、私は別々に行政処理をしなければなりませんし、かつ両者の擦り合わせも要します。その建物の修理はあと5年ぐらい続きます。

〈庭園整備の2つの側面〉

庭園の整備を、「どのように直すか」と「お金をどうするか」の2つの側面を考えながら運営しました。

一つ目の「どのように直すか」です。国指定文化財は、その所蔵者の所有である一方、国民も所有者であ

るとい面があります。つまり伝法院庭園は、片方の所有者である浅草寺のみの考えで修復することはできないのです。

修理を行う際は、委員会にて検討し、その結果をもとに国に申請して、国が適当な行為と認めて、初めて施工できるのです。

この「文化財の状況を変える行為」を「現状変更」といいます。「現状変更」を国に申請し、「許可・承認」を受けます。「現状変更」とは、例えば「護岸を積み直す」、「新たに植栽する」、「既存の樹木を伐採する」、「地面のすき取りを行う」、「既存の管理施設（例えば焼却炉）を撤去する」など、多くの行為がそれにあたります。指定文化財は「指定日」における状態が文化財的価値の原点であるという考えが根底にあります。そのため指定日の状況を変えなければならない場合は文化財の変更行為なのです。庭園整備を通して、実は30回ほど現状変更を申請し、許可・承認されています。

2つ目に「お金をどうするか」です。伝法院庭園の修理事業は国庫補助事業です。国の文化財を修理する際に、国の下の自治体である都道府県・市区町村が補助金を出してくれる場合と出してくれない場合があります。

うことです。

しかし、慎重に定めると申ししましても、庭の素人の寺の中でいくら考えても妥当な答えが出ません。そこで、国（文化庁）、東京都、台東区の専門家、寺、そして有識者より成る「伝法院庭園保存管理計画策定委員会」（後に「伝法院保存整備指導委員会」）を設け、修理の方針を検討しました。委員長に東京農工大学名誉教授・亀山章先生を迎え、主要な委員として日本庭園協会名誉会長・龍居竹之介先生にご指導いただきました。

ますが、伝法院庭園の事業は、東京都・台東区も財政状況に応じて補助金(随伴補助)を出してくれました。補助率は、原則は国が事業費の50%、都が残りの半分の25%、そしてそのまた残り半分の12・5%を区という配分です。最後の残った12・5%を浅草寺が負担しました。このような配分比で浅草寺の補助事業は成り立っています。

4 修理事業前の状況

伝法院庭園は江戸時代からおおよその形が変わっていないとお伝えしましたが、いくつか改変された時期があります。

①江戸時代・17世紀

寛永寺の支配を受けるにあたって、將軍や輪王寺宮を迎えるにふさわしい庭園に(おそらく)整備しています。それが近世以降の最初の本格的な整備であったと思います。

②1855(安政2)年

安政2年の大地震もその一つです。安政地震で本坊が半壊し、浅草寺の副住職も巻き込まれて亡くなりました。本坊のうち、庭園側の建物が倒壊しており、庭園の一部、おそらく護岸なども壊れたと思います。

③明治維新期・近代

明治維新の混乱、そして一番大き

いのは上地令による浅草公園化による改変であると思います。それまでの「秘園」ではなく、一般公開に伴う東京市による公園としての整備、例えば園路整備などで庭園は大きく改変されました。

④第二次世界大戦終戦前後

1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲で、本堂が焼失します。そのとき、本坊へ寺務機能が移りました。また空襲罹災者を保護するなど、本坊の機能は大きく変わらざるを得ませんでした。それに伴い、庭園も何らかの影響を受けたと思われます。

⑤第二次世界大戦後・2011(平成23)年まで

戦後から文化財に指定されるまでは寺が独自に維持管理していました。1973(昭和48)年、隣接する五重塔の再建に伴い庭園にも相当手を入れました。

5 修理の実際

次に実際の修理がどのように行われたかという道筋をお話しします。

〈修理の道筋〉

①『保存管理計画書』に則り、修理の基本設計を行い、併せて修理費の試算を行う

②国に「補助金申請」を行う

③「補助金申請」が受理される

④有識者委員会において検討し、細かな設計を詰めていく

⑤詳細が決まったなら、必要に応じて国に「現状変更申請」を行う

⑥「現状変更申請」が許可される

⑦施工業者を入札等により決定し、施工を進める

⑧施工中、委員会等の現場指導・確認を経る。場合によっては設計の修正を要することがある。

修正に伴い、さらに「現状変更申請」(「現状変更の計画変更」)を行うこともある

⑨工事終了。国に「実績報告」を行う

⑩「実績報告」が適正と認められれば、寺に補助金が振り込まれる

このような道筋を経て補助金を受けて仕事をします。伝法院庭園ではこれを約10回繰り返したわけです。では、初めに何をしたかという現状の把握からスタートしました。

〈現況の把握〉

主に次の3点を通して現況を把握しました。

①庭園の樹木・護岸・構造物などの現況調査

要するに「庭園の価値」を示す図面を作ることです。例えば樹木はそ

の全てをナンバリングし、種類、大きさ、状態や位置について調べて記録します。

②発掘調査

名勝庭園は、地盤そのものも文化財であり、基本的に掘削はできません。委員会において「昭和初期の姿を基本とする」という方針を決め、「昭和以降の新しい地層は、必要ならば掘削し得る」と判断しました。「新しい地層」はどこまで、どのように形成されているかを判断するために発掘調査を行いました(図6)。

③史資料の点検

修理に際して、「かつてこのような状態であったから、今回もこのよう

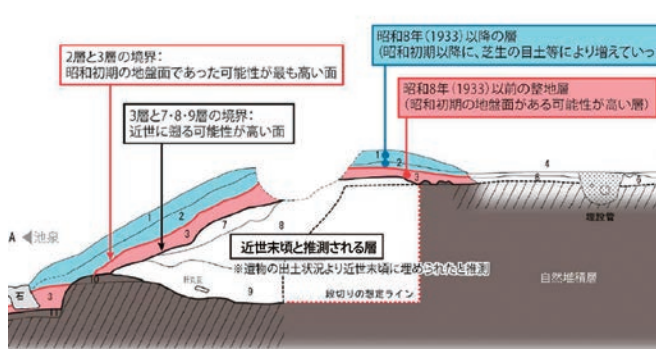


図6 〈発掘調査の成果〉大書院前の土層断面図(発掘調査資料を基に作成)浅草寺提供 名勝庭園は、地盤そのものも文化財であり、基本的に掘削などはできない。「昭和初期頃の姿を基本とする」という方針を決め、「昭和初期以降の新しい地層は掘削し得る」と判断した(現状変更)



図7 〈史資料の収集〉東岸の南から北方向『浅草伝法院庭園写真』絵葉書 1935(昭和10)年～1941(昭和16)年頃 浅草寺提供 筆者加筆

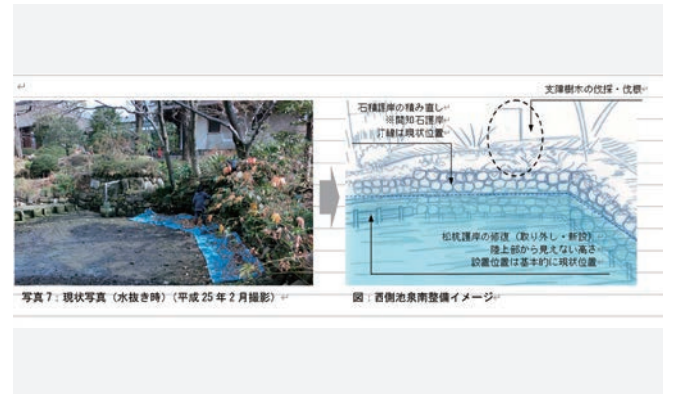


図8 〈護岸の現況把握と検討〉護岸は安全性と直結するところであるため、庭園の修復において、よく検討すべき箇所となる 浅草寺提供



図9 西池 護岸工事の様子(向かって左の杭が旧護岸) 浅草寺提供

に直す」などの根拠となる資料(文書、絵図、写真など)(図7)を集めます。残念ながら、中には事業が終わってから発見された資料もあります。こういう史資料に頼りながら、どのように整備するかを探っていきます。

フェンス(仮設構造物)などの扱いは比較的容易に判断できますが、護岸については慎重に判断します。護岸は安全性に直結しますので、積み直しをする箇所がたくさん出てきます。その場合、同じ石を使うか、新しい石を導入するのかを検討します。また、周辺の樹木が成長して崩れかけているなど明らかに整備不良

な護岸(図8)はどう直していくかを史資料に頼りながら検討し、竣工予想図を作成して設計を進めます。

〈修理の実際〉

修理を進めていくと、このようなことが起こってきます。

①設計の通り進めていくことが基本である

これが大前提ですが、設計通りにならないことが多々あります。

②施工を進める中で、設計から変更を要する場合がある

例えば、

●地面を掘削した結果、そこから「何か」が出てきた

これはとても多いです。特に浅草寺は歴史が古いので、昔の護岸(図9)の遺跡なども出てきました。

●施工中に「○○とした方がより適当である」との判断があった

設計通りにいかない場合は修正が必要です。「設計を修正し、こうした方が適当である」と現場の状況に応じて指導を受けることもあります。

庭園の場合、机上だけではうまくいかず、現場の状況と合わせてこうした方が良いという指導を受けることもあります。

●設計時点よりも費用がかかる施工となってしまう
それはままあります。地盤を掘削

したところ、予期せぬものが出てきてしまい、その処理をしなくてはならないなどで、予算オーバーとなります。そうすると補正予算を申請し事業費を上げる、他の施工を縮小するなど対応しました。

●設計時点よりも時間のかかる施工になってしまった

このようなことが連動して、複合的に起こってくるのです。

③文化的な価値があるかもしれないものの撤去を要することもあるやむを得ず画像や図面などで記録し、その情報を残していきますが、担当者として私は「この施工は修理であるのか、それとも文化財の破壊であるのか?」と迷うこともしばしばありました。

庭園の修理は、美術品のそれとは異なり、その構造、規模、性質などの要素を、すべてそのままに残すことはできません。そのため、ある判断をする場合は、何を基準としたのかを明確にしておく必要があります。

例えば、何かを撤去すると判断をした場合、安全性、あるいは美観、あるいは撤去をとりやめ現状維持といった判断基準を明確にしていこうというのが大事だと思います。

それでは、修理の実際を施工前と施工後の写真で紹介します。



(施工前)北池・五重塔テラスより「経が島」を見る
向こう側が全く見通せず、緑の壁のような状態であった



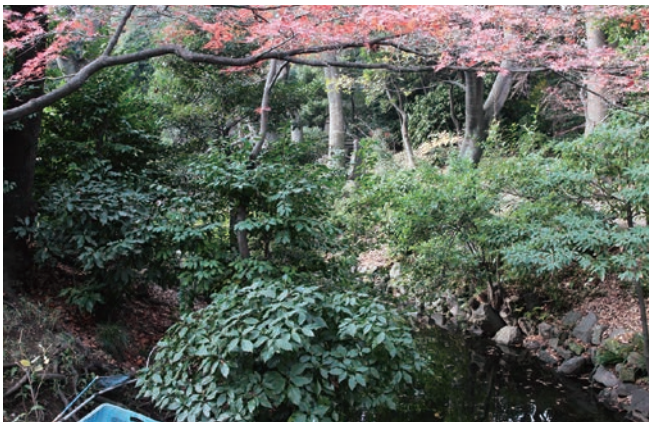
(施工後)北池・五重塔テラスより「経が島」を見る
「経が島」の全容が見えるようになった



(施工前)北池・「経が島」を横に北池を歩む
一定の形状の護岸ではなく、ちぐはぐな所もあった



(施工後)北池・「経が島」を横に北池を歩む
自然石護岸と芝生の法面により周辺の景観になじんだ



(施工前)北池・溪流部を橋から見る
低木が生茂り流れが見えなかった



(施工後)北池・溪流部を橋から見る
名称の通り溪流になった



(施工前)西池・大書院より北西を見る
手前に樹木があると視線は上方にいき、周辺の建物が気になった



(施工後)西池・大書院より北西を見る 西池の水面が見えるようになると視線が下がり、周辺の建物は気にならなくなった

6 修理を終えて

修理事業により次の成果が得られました。

①名勝庭園としての本格的・全面的な整備となり、以後の修理の指針となった

東京都内はもちろん、日本全国を見渡してもこれだけの規模の整備を行った数少ない事例の一つです。

②国庫補助金による庭園整備の中でも特に長期にわたり、特にお金のかかる事業であった

③護岸・園路などが整備され、植栽も整理された

美観が良くなつて安全性も確保されています。それは単に美しいだけでなく、単に安全だけではなく、よって立つべき情報、昔の資料があり、それを目指しつつ美観を調整しています。

④いくつかの視点を設け、そこからの景色が改善された

⑤近世以前から運用されてきた庭園であることを示した

いろいろな遺構が見つかり、さまざまな歴史を背負っている庭園であることが示されました。

⑥本坊建造物の修理工事との兼ね合いなどで一部ながら未着手の整備がある

それは第2期整備として実施する

予定です。

事業を終えて

修理事業を終えて、次のように考えています。

①庭園は「生き物」である。植物は大きくなり、枯れ、石の状態も変わっていく

②庭園の周辺(外部)も変わっていく庭園は園内で完結しているわけではなく、園外と密接な関係があります。外部を絡めながら庭園を鑑賞し、作庭する方法(借景)を鑑みると、修理時において、恒久性の高い外部の物との関係をよく考えるべきです。江戸時代においては、西に上野公園や寛永寺、南西に富士山が見えました。現在は、北東に五重塔、東にスカイツリーが見えています。

「文化財庭園であるから」を理由に過去をそのまま踏襲すると、現実と切り離されてしまいます。現代的価値を加味し、現代的な課題に対処しないといけないと思っています。

③さらに良い方法、さらに良い選択肢があったと思われる

私が担当者として運営した内容が最善であったとは思いません。何が最善であるかはわかりませんが、より妥当な選択を行うよう心がけていくべきであると思います。

④識者という頭脳、設計、現場指導者、現場の庭師、お金と時間、この5者が揃って良い庭になる

この5者に加えて所有者の熱意、あるいは行政や市民の熱意もあるかもしれません。いろいろなものを加味し、かつこの5者が揃うと良い庭になる可能性があると思っています。

5者の調整が、担当者の役割であったと今になって思います。

⑤次の修理に備えて、データや資料を整理する必要がある

十分整理しています
が、今後の課題でもあります。

修理してより良い庭園にはなると思いますが、それが文化的に正義であるかどうかは、常に意識しなくていけない

と思ったのが、修理を終えての私の雑感です。

(浅草寺 学芸員)

図版：特記以外すべて浅草寺提供写真：すべて筆者撮影

註1：平安時代初期の天台宗の

僧侶。第3代天台座主。

入唐八家(最澄・空海・

常晓・円行・円仁・惠運・

円珍・宗叡)の一人。下野

国の生まれで出自は壬生氏。

註2：江戸時代後期の安政年間(1850年代)に、日本各地で連発した大地震である。世にいう「安政の大地震」は、特に1855年(安政2年)に発生した安政江戸地震を指すことが多い。

註3：昭和期の日本の作庭家・日本庭園史の研究者。岡山県上房郡吉川村(現・加賀郡吉備中央町吉川)の生まれ。日本庭園を独学で学び、1936(昭和11)年より全国の庭園を実測調査し、全国500箇所にさまざまな時代の名庭実測、古庭園を調査した。



雪の伝法院庭園 2022.正月 筆者撮影

庭に向かう私の姿勢

第2回『志 静岡庭師、先へ先へ』

伊久美和秀

2023(令和5)年6月25日(日)オンライン

はじめに

今の等身大の自分が思うことを喋らさせていただきます。自分も庭が好きで勉強中です。今日は、それも踏まえて、自分の思う話ができて、それに対していろいろな意見を聞ければいいと思っています。

独立後は、いろいろな庭を見て回り、庭の世界は広いということを改めて知って、尊敬する庭師の方に会いに行ったりしていました。今日は自分の今までの流れを踏まえて、「天

伊久美和秀プロフィール



1978年、静岡県藤枝市生まれ。23歳で庭の世界に入り、庭の素晴らしさに魅了された。12年の修行後、独立「Sora niwa 伊久美造園」。個人邸や寺、商業施設の作庭、手入れなど管理を行う。地元仲間9人で「Landscape Laboratory静岡」を立ち上げ、「天空の坪庭」展を開催。庭師とだけ笑顔、「石積みキャンプ」などの企画運営者として活動。2021年から静岡県支部長。

空の坪庭」展のことを話させてもらいます。

「天空の坪庭」展開催のいきさつ

きっかけは、独立後、暇だったことです。仕事もなく、ほぼ友達や知り合いの応援という形でやらせてもらっていました。その中で静岡県の仲間でもある遊創園の竹田紳助君に誘われて、全国の夏のスキー場をユリで一杯にするという仕事で1ヶ月半ぐらいかけて兵庫、岐阜、滋賀、長野、群馬、大阪と移動して、ひたすら穴を掘ってユリの球根植えをやっていました。

その間、仲間たちと今の庭師についてとか、庭の良さや現状とか、それぞれの夢について話をしました。

その内容は、現在、住宅の庭はハウスメーカーが家を建て、駐車スペースを設けると庭空間がない。そこにプレゼントで木を1本植えて終わ

りという住宅が多くみられ、自分が独立した頃よりひどいくらいでした。自分の周りの庭師たちもブロック積みや駐車場の工事をする人たちが多く、自分らはそういうふうにはならないようにしたい。下請けという形で図面を渡されて、ここにこの木を植えてくださいということが多いのですが、庭と家を一緒に考えられるように、建築屋さん和庭師が横並びで対等に話せるようになりたいということなどです。

それではどうしたらいいかということ、庭師の社会的地位を上げたという思いがあり、そのためには何か発信しないと変わらないという話をしました。

そこで、発信するために地元の熱い庭師9人ほどで、「Landscape Laboratory静岡」、略して「ランドラボ静岡」を立ち上げて、行動することになり、手始めにイベントをやるとういうことで生まれたのが、「天空の坪庭」展です。

JR静岡駅の駅ビル「パルシェ」の屋上を借りて開催しました。最初、「パルシェ」には何の繋がりもなかったのですが、そこに出入りして

いる畳屋さんが「パルシェ」の取締役の方と打合せをするというので、竹田君が同席させてもらい、イベントの話を持ちかけました。そうしたところ、取締役の方が面白いことをやりたいという野心家で、さらに庭にも興味があり、すぐに話に乗ってくれました。それが始まりで、「パルシェ」の屋上での開催が決定しました。

イベント開催の準備

イベント会場が決まり、「ランドラボ静岡」のメンバー9名が中心となり、第1回を2019年4月5日(金)から7日(日)に開催すると決めた、開催準備にかかりました。

開催期間は3日間、制作に1週間、片付けに3日間としました。

参加者は静岡県内の庭師30名です。集まった30人にも手伝ってもらい、SNSやインターネットを使ったり呼びかけ、フリーマガジンに載っている地元の建築関係の企業に1軒ずつ電話を掛けて、「1坪あれば庭をつくれます」とアピールをする意味で、案内状を送らせてくださいという話を持ちかけたところ、だんだん

と盛り上がりつつありました。

展示会場は8階建て駅ビル「パルシェ」屋上（スカイガーデン）です。屋上へはエレベーターを利用して上がります。1回目は、庭をつくる人に対して、土嚢袋1人20個分の土をプレゼントすることにして、結局600個の土嚢を9人がエレベーターで8階建ての屋上まで運びました。2回目からは、各自で土を持ってきたらいいことにしました。

展示場所は抽選で選ばれます。後ろに花壇があったり、角になったり、場所によっていろいろ条件が違うので、場所が決まってから庭の向きを変えてみたりしています。

エレベーターの間口が2mほどしかなくて、それに入るものしか運べないのですが、ミニクーパーを持ってきた参加者がいて、その時はさすがにびっくりしました。

基本的に電気はコンセントから引くのではなく、バッテリーとかでやっています。電気はきりがないので使わないようにしています。

エレベーターから出ると、受付があります。ここでパンフレットやアンケートを配っています。

静岡駅構内にウエルカムガーデンを設けています。毎年、参加者の1人にデザインを考えてもらって、つ

くついています。それを見た方に会場である屋上に上がってきてもらえるようにつくっています。

会場ではジュースとかお酒とか食べ物も売っているの、昼間はゆっくりベンチに座って庭を見てもらう感じですよ。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を控えましたがその後、毎年4月の第1金曜日から日曜日にかけて開催される「静岡まつり」と同日に行っており、今年は第5回目でした。

テレビやラジオ、新聞などの取材が結構来てくれて、宣伝してくれます。やはりテレビの効果はすごくて、放映されると家にお年寄りの方とかがその半日後には、テレビを見たといつて来てくれます。初回は約5千人が来てくれました。

3回目からはカタログを作成しました。

イベントの概要と反響

運営にかかわる費用としては、出展料という形で1区画3万円をもらっています。その範囲で会場の運営をしています。その他、スポンサーの協賛金も集めています。

この場所の賃料は、最初の取締役の方が協力的でしたので、1区画5,

000円です。このイベントは駅ビル「パルシェ」の集客にもなっている。来場者は屋上に上がってくる間にご飯を食べたり買い物したりと、「パルシェ」との相乗効果が生まれています。

参加者たちとイベントの反響

参加者の年齢は40歳以下の方が多く、60歳代の方も数人います。最近ではチャレンジ枠というのを設けて若い世代の参加者も増えています。第5回目の今年は3人出てくれました。自分の従業員も出ています。

参加してくれる庭師たちは皆、ある程度の熱量を持ってきてくれるので、そういう人たちと2週間一緒にいるだけで、お互い刺激し合って、すごく楽しい時間を過ごすことができます。

出展作品は1人1坪（1.8m×1.8m）の枠の中に、それぞれ自由に表現します。

この1坪という縛りがあるのです。自由な広さの庭より良い部分もあって、小さいけれど大きく見せたりと、考えさせる部分はすごくあると思

います。

出展作品はまちまちで、その人の感性で全然違ったりするので、30人いてもデザインがかぶることはないのです。各々その作者の思いがあって、会場に来ると、その思いが聞けたり、バックストーリーがあったりして、すごく面白いです。

表現するところは、皆、まちまちで、売れる庭をつくる人と、ただ表現したいという人と、本当にいろいろです。それで、その場で売れてしまう人もいれば、展示会が終わった持ち帰るよと言う人もあります。

最初の頃は、半分以上の方が大なり小なり仕事に繋がっていました。



しかし、自分はチャレンジだと思
っていますので、売れるもの、買っ
てほしいものに直結するようなもの
をつくっていません。ですので、な
かなか仕事には繋がっていません。

作品を考える過程が、みんな結構
面白くて、1回出たらまた次の年に
という感じです。その1年間、次は
何をつくりうかなと考えています。
「天空の坪庭」展の作品をつくるこ
うことが刺激になっていると思
います。

このイベントはコンペではないし、
賞ありませんが、お客さんに良か
った作品を3つ挙げてもらって、そ
れを集計しています。

賞をつけない、争わないから、和
気あいあいとやっていけるのだと思
います。今年は静岡県と県外勢の戦
い、静岡VS関東庭師みたいな感じ
にしました。

日々の作業を終えた後、参加者同
士集まって庭の話で盛り上がりま
す。泣きながら話す人もいました。
毎回、すごくいい場だな、やはり仲
間なんだなと感じています。

イベント後もお互いの仕事を手伝
いに行ったり、県外の方には近く
に行ったときは連絡を取るとか、そ
ういう仲間意識が結構広がって、い
いと思います。

第1回は静岡県内の庭師のみで
開催しましたが、今では県外の庭
師さんの参加がだんだん増えてき
ています。

「天空の坪庭」の効果と広がり

5年も展示会を開催していると、
1回目より2回目、2回目よりも3
回目と出展の準備に掛ける時間もど
んどん増えていって、参加者のレベ
ルが上がりがりうまくなっています。

1年目からずっと出展されている
方が7、8人ぐらいいます。その人
のスタイルができて上がっています。
今年は夜の部でライティングもやり
ました。

1回目を皮切りに、各地から参加
してくれた庭師の方が、地元でもや
ろうという話になって、「〇〇の坪

庭」展という形で、浜松、京都、奈
良、愛知と広がっていきました。各
地での開催では、それぞれの土地の
雰囲気が生かされていました。自分
たち「ランドラボ静岡」のメンバー
は助っ人的な形で協力しました。

京都は平安神宮で、浜松は駅ビル
メイワンの屋上で、奈良は奈良時代
の史跡で、愛知はお寺を借りてやっ
ていました。

みんな何かやりたいけれど、形に
できないというか、行動ができてい
なかったところに、この「天空の坪
庭」展で刺激を受けてやってくれた
のではないかなと思います。

浜松駅ビルのメイワンの屋上で、
浜松の人たちと「天空の坪庭」展に
1回出展しました。「ルートルート」
というグループを立ち上げて、主催

しました。

浜松も30人が集まりました。やは
り浜松色があつて、静岡とはちよつ
と違います。土地柄がおしゃれな
のです。ドライガーデンとかドライ
ストーンとか、ドライ色が結構強い
です。

愛知では石が結構採れるので、石
積の文化もあります。その庭師さ
んは、やるがちよつと違うなと
いうことを感じました。

おわりに

自分はいろいろな人が参加する庭
展を見たり、出展したりして、自分
のスキルを向上させてきました。こ
の坪庭展という場を設けてくれた
「ランドラボ静岡」のメンバーに感謝
しています。



28LABO(ニワラボ) 菊池秀幸氏・出展作品 長野からの
出展 飛騨の槍ヶ岳を線と木のラインを基調として抽象
的に表現した。(作者)
2023.4.2 撮影 伊久美 和秀



sora_niwa 伊久美造園・出展作品 雨宿りの時の雨の落
ちる様に感激、屋上の晴れている空に雨を降らせたいと
いう思いで創った。景色を茶庭に見立て作った作品。波
紋を基調としている。
2023.4.2 撮影 伊久美 和秀

3年前に出展してから、僕はいろいろと考え方が変わったし、やはりみんなを尊敬して、いい目線で見られるようになりました。だからこの「天空の坪庭」展は、自分にとって本当に勉強になる場所です。

ここ数年で「パルシェ」の担当の方が変わって、自然とか庭に対して関心が乏しく、「汚れる」とか言われたりします。この催しへの理解がなくなっていると最近感じます。土や資材を屋上に運ぶ際は、気にかけてやっているのですが、エレベーターの中がやはりどうしても土で汚れてしまったりするのです。

このような課題もありますが、毎年4月に開催していますので、皆さん見に来てください。出展も歓迎です。

(静岡県支部長)

天空の坪庭

小倉 良博
おくら よしひろ

1981年、群馬県生まれ。
美術大学入学のため上京。
20代はフラフラ。30代、造園会社で働き始め、2022年独立。好きな著名人・フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー、加藤泉。円空、クリスチャン・ポルトンスキーなど

SNSで様々な情報が得られるようになり、いろんな庭師の方の活動(仕事)を見たりすることが楽しみでもあります。大変参考にさせてもらっています。

自分たちの技術を、惜しみなく動画で解説してくれる職人さんも多く、私自身もその動画を参考にとりあえずやってみる、という感じで初めてのこと挑戦してみたり。とにかく毎度、刺激をもらっています。

勿論、「天空の坪庭」のことも知っていたのです。今回の講義で、伊久美和秀氏が企画していたことを初めて知ったので、興奮気味で講義を聞いていました。

参加された方々の作品は、各人各様で、きつと普段の仕事ではできない表現(施主さんがいない)が可能だったり、実験的であったりするのかな?と感じました。

こういった展示スタイルは、良い意味で「庭」というカテゴリーをはみ出して境界を曖昧にしてしまう力があると感じました。

見る側も、作品として鑑賞することによって「庭」を普段とは違う視点から見たりすることで、感じ方も変わり、新しい発見があったりするのではないかなどと思いました。

まさか現役の庭師の方が企画しているとは思っていません。とても驚きました。こういった企画は、表現する方々、それを見る方々の創造力を共に高めていけるものだと感じました。

(正会員)

こぼれ話..... 浅草寺にもあった噴水

日比谷公園に行ったことがある方でしたら一度は見たことがあると思います。私もつい先ほど見えました。それは雲形池の中央にある「鶴の噴水」です。案内板によると1905(明治38)年に作られたもので東京美術学校(現・東京芸術大学)の教授・津田信夫が制作(岡崎雪聲との共作)したもので、日本で3番目に古い公園装飾噴水だそうです。

実は、浅草寺にも津田信夫制作の噴水があったのです。

1940(昭和15)年に描かれた絵図「金亀山浅草寺境内図(図1)」を見ると、本堂の後ろに噴水(図2)があります。浅草公園だった頃に、公園にはやはり噴水ということで東京美術学校が公共工事として請け負い、津田が制作しました。

今はこの位置に噴水はありませんが、オーナメントの一部が残っています。どこにあるかというと、本堂前のお水舎にあります。

お水舎の天井には「墨絵の龍」が描かれ、手水鉢の上には仏師高村光雲と津田の合作による龍神像がまつられています(図3)。この他にも、浅草寺には公園であった頃の残滓が今も残っています。

(藤元裕二・浅草寺 学芸員)
(みんなの緑学の講演から)



図3 浅草寺お水舎の龍神像 筆者撮影



図2 噴水部分の拡大図



図1 「金亀山浅草寺境内図」浅草寺所蔵

鑑賞研究委員会 東日本大震災復興記念庭園鑑賞会

2023 (令和5) 年9月16日 (土) うちだ ひじ 内田 均



当協会創立百周年記念事業として2018年に開園した。この庭園は東日本大震災で被災した方々の鎮魂と復興を祈念して、宮城県支部と本部の共催で50年の伝統庭園技藝として築庭したものである。

庭園の設計者で現場監理者の横山英悦氏（宮城県支部）により開園5年後の現地説明がなされた6カ所のビューポイントを紹介する（図1）。

①中島・流れ・滝・堤・休憩所が見える景（図2）。左右の山の谷間を挟んだ一番低いところに川の流れがある。ここは湿地帯だった。そこで松杭を打ち、震災で不要となった50tほどの石を捨て石として敷き均した。さらに、現場の伐採木のスギやモミの丸太を敷き並べた上に碎石を敷き、盛土をおこない締め固めた。それで路盤が落ち着き、重機が使えるようになり、休憩所などの石積ができるようになった。ひと夏の攻防だった。作庭当初は、まだ庭石として使える石はあまり入っていなかった。震災の3〜4年後に石がどんどん運ばれてくるようになり、その中からこ

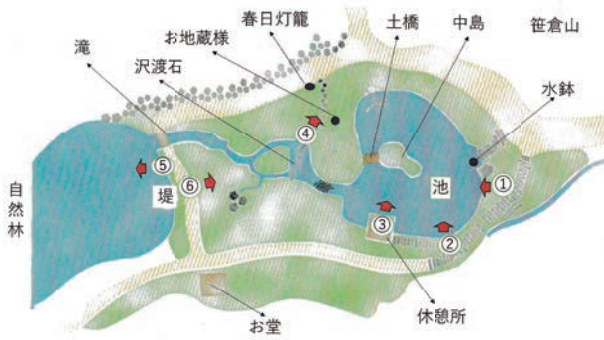


図1 東日本大震災復興記念庭園 6カ所のビューポイント



図2 ビューポイント①
2019.6.28 ササキゲル氏撮影

の石はどこに使うか、山石系と川石系の石をどう据えればその石の表情が出るのか、石選びが始まり、いわゆる現場設計をした。

②休憩所・土橋・中島・水鉢・笹倉山と水鏡が一望できる景（図3）。森林の伐採完了後、笹倉山が眺められるようになった。池に水鏡として映っている笹倉山は借景ではなく庭の主景である。今の季節なら夕日が沈む4時半から5時頃、その照り返しが反射して樹木の影や広い山の景色が映る。最も綺麗なのが3月20日頃の夕日が沈むときである。

③休憩所より真正面に笹倉山が臨める景。池にせり出しているので涼しく感じる。

④滝流れに架かる沢渡石を渡り進むと、正面に再び笹倉山が迫る景。右にお地藏様、左に生込み形の春日灯籠がある（図4）。

⑤堤からみた水源奥の自然林の景。落葉すると100mぐらい奥まで見えて感動する。

⑥堤から見下ろす庭園の全景。庭の先に笹倉山が見え隠れする景観。見下ろすと流れの正面奥にカエデ林があり、その幹越しに池が見え、沢渡石と飛石が右から左へと打ってあるのが見える。庭の中に取り入れた流れは、一段と庭に動きを与え、心地

よい水の音色が私たちを癒してくれ。雨が降った後、貯水池からは一週間近く水が流れるが、すぐに渇水してしまう。そこで、常に流れを表現するために、部分ごとに川を堰き止め、渇水期で雨水が十分になくても川のように見える工夫をしている。開園以来、宮城県支部会員と地元ボランティアの皆様によりこの庭園が維持管理されている。心より感謝したい。（鑑賞研究委員会委員長）

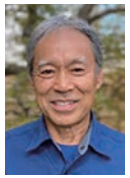


図3 ビューポイント②
2023.8.20 横山英悦氏撮影



図4 ビューポイント④
2023.11.3 ササキゲル氏撮影

東日本大震災復興記念庭園鑑賞会に参加して



1951年生まれ。千葉県市川市出身。機械、電気、自然物理に興味があり、高校では自動車部に所属。休日は親父の手伝い、いつしか庭の世界に入る。

いわさき たかし
岩崎 隆

初秋の仙台へ、何歳になっても旅は楽しいものです。特に今回訪れる場所は庭園協会の百周年記念事業として5年という歳月で全国の庭師とその子弟延べ3500人が力と情熱を持って被災された地域の復興と薄れることのない心の支えにと造営された壮大な魂のお庭です！

この庭をつくるには場所の選択、地域の特性、立案、設計、材料調達、工事費捻出、地域の協力を得ることなど多くの苦労があったとのことですが。本部共催事業とはいえ、見えなるところにお庭に対する宮城県支部の情熱と底知れぬ愛情がレントゲンのように見えました。この記事を見ておられる方々は皆プロの方です。わかりますよね！

地域を知り尽くし、設営場所を探し出した眼力、場所提供を快諾してくれた覚照寺の北岡和弘前住職。壮大な造園工事の条件を整え、着工に至るまでのプロセス、そして完成に至る期間をモチベーション高く維持

された筆舌に尽しがたいパワー、宮城県支部の方々とその期待に応えた全国の庭師の方々の惜しみない努力に御礼申し上げます。

さて、私がパースしか知らない時点で初めて現地に伺った時、工事予定地の得も言われぬ深遠な世界観を感じました。深い森からの流れ、ここを探し出した意味が庭師の端くれの私にも良くわかりました。その時はまだ池もなく、正面左側の熊野古道をイメージした石畳の工事中でした。全国から集まった会員が黙々と作業をしていました。ふと振り返ると、遠方の山々が借景として素晴らしい情景を醸しています。こんな好条件、そうは無いものです。全国に現存する多くの名庭園は借景も含め好立地につくられています。期待が膨らみました。

それから4年、いよいよ完成した庭園のお披露目の日が来しました。千葉県支部でも庭園見学会参加の希望者を募り、私も参加しました。バスから降りて静々と参道を歩んでいくと、ありました！凜とした佇まいの中にも本物の持つ空間美に満ちた造形が眼前に広がります。息を呑むとはこういうことだと思えます。新庭には見えない納まり、仕上げの良さに庭園協会の本気モードを感じま

した。

「あれから40年！」というテレビの名句がありますが、あれから5年の歳月が流れ、その間の維持管理は大変だったと思います。自然災害もあり、堤防の決壊など多くの障害もあったと伺いましたが、植物たちもまさに自然界の一部と化し苔も乗り、好立地を生かし切った設計が新たな宮城県の名園となっています。是非全国に紹介していただきたい。

今、日本文化は衰退と言える状況です。日本文化の宝として、一般の方へも全国的に知れ渡る施策を一般社団法人日本庭園協会が発信するべきだと思います。多くの見学者が訪れる名所として君臨して行くことを祈念してやみません。

(千葉県支部長)

ご縁に感謝



あきやま ひろふみ
秋山 広道

1985年生まれ。群馬県藤岡市旧鬼石町出身。石材業を営む父の元で修業し、独立して9年目。千葉県成田市を中心に自然と共存する住空間づくりを目標に精進しています。

百周年の時以来、東日本大震災復興記念庭園へは2回目の訪問でした。今回は設計をされた横山英悦氏より復興支援の熱い思い、設計意図、技術的なこと、今後の目標を解説していただきました。

お庭は馴染みはじめ、とても素敵に美しく成長していました。解説のお陰で前回見たときには感じることでできなかった色々な創意工夫を知ることができ、つくった後の管理の素晴らしさも感じました。

2日目は菊地正樹宮城県支部長の経営される庭正パーク(キャンプ場・ちびっこ広場)を見学させていただきました。

体験型の展示場になっており、テーマは「お庭でキャンプ」とのことです。テントや五右衛門風呂、アスレチックにドッグラン等、物づくりで若い人がお庭に興味を持てるような試みがされていました。体験型の展示場のヒントをいくつもいただきました。

今回、鑑賞研究委員会、宮城県支部の方の企画のお陰でとても良い2日間の視察ができました。次回は紅葉の時期に是非もう一度見に行かせてください。「庭を見に来てくれて本当にありがとう」と言う横山氏の笑顔がとても活き活きしていたことを忘れません。自分もより多くの方に見ていただき心に残る庭づくりができるように一生懸命に頑張っていきたいと思いました。お誘いください。た岩崎隆支部長に感謝しております。

(正会員・千葉県支部)



今回、ポートランド日本庭園（以下、PJG）のチーフ・キュレーターであり、当協会の評議員及び国際活動委員の内山貞文氏からの講師派遣依頼に応え、2023年7月9日（日）～16日（日）まで渡航しました。

今回のスケジュールは以下のとおりです。
7月9日（日）…（日本発）ポートランド到着

7月10日（月）…時差調整休息日、PJGの庭園部マネージャー柳佳奈子氏、常勤ガーデナー7名と打合せ
7月11日（火）～13日（木）…Smith Rock社にて実地指導
7月14日（金）…セミナー最終日（反省会・質疑応答）
7月15日（土）…自由行動
7月16日（日）…帰国
私の担当は1週間のセミナーの内、後半3日間の実地指導でした。

実地指導1日目

講習会場は車で30分ほど離れた「Smith Rock」という石材店の置き場でした。現在建設中のトレーニングセンターが完成すれば、そちらが会場となるということです。

昨年同様、現地在住の裏千家茶道師範Jan Waldmann氏より茶道の御点前と心を学びました。毎朝一服の御抹茶をいただいてから作業に入りました。

研修は1チーム3名制で4チームとなり、私は2班のインストラクターを務めました。今回は過去に1～3回、セミナーに参加した中級レベルの方が対象でした。昨年度の初級レベルから中級レベルに変わったことが今回の特徴です。

割り当てられた3m×3mの敷地に蹲踞、飛石、延段の配置を受講生たち3人で話し合って決めてもらいました。私は選択肢の幅が広がるようにアドバイスはしましたが、決定



図1 蹲踞、飛石、延段の配置を検討する受講生



図2 スミスロック社の資材置き場



図3 蹲踞の見本・向鉢式



図4 中腰が不得意な受講生



図5 延段の指導の様子

するのはあくまで受講生になるよう促しました(図1)。

セミナーは資材置き場の中から各役石を探すところから始まりました(図2)。蹲踞の形式は「中鉢式」か「向鉢式」とし、私の班は「向鉢式」を選択したので、役石は「裏千家式(湯桶石を左・手燭石を右)」としました(図3)。

実地指導2日目

延段では石の大きさのバランスと角度の話などを交えて、美しく見える延段について指導しました。

日本人と欧米人の作業体勢の違いをみると、欧米人にとって、足を曲げた中腰での姿勢を維持することは



図6 完成した課題庭園

極めて困難であり、膝当てを付ける人もいれば、下敷きに低反発素材を当てる人もいました(図4・5)。これは日本人との習慣や骨格の違いによるものであり、この姿勢については注意しないことにしました。今回の指導では、特に「心」にも重点を置き、お互いの文化の違いを理解し、尊重しあって接しました。

例えば、一度据えた石の上には足を置かないこと、常に綺麗に掃除をして自分たちの仕事を汚さないこと、手箒を片手では扱わず常に手を添えて「片手間」で仕事をしないことなどを指導しました。その結果自分たちの作業に誇りを持ち、また次の作業にも移りやすく、仕事の成果



図7 完成した課題を前に受講生と

が綺麗に視界に入ってくるようになります。常に掃除をする意味と常にも道具を元に戻すことなど、直接技術に関わることでないことが、実は技術につながっているということを理解してもらいました。

実地指導3日目

課題は2日間と2時間で完成させました(図6・7)。来年度のセミナーは中級から上級コースとなった場合、もっと人数を減らし、最終的には1人の力で1日で全て完成できるようにすることが目標です。

4チーム全ての蹲踞はJan Waldmann 師範により使い勝手を確認していただきました。



図8 受講生全員と記念写真

その後、前国際活動委員長の故三橋一夫氏への追悼式が行われました。毎年講師を務めている植弥加藤造園の武藤智彦氏はPJGでのセミナーで三橋氏と親交があり、是非とも今回のセミナーの最後に三橋氏へ向けたメッセージを込めたいと仰っていました。

以前のセミナーで、三橋氏が完成させた庭の四ツ目垣に切り口を入れ、一輪の花を生けたとのこと、その姿が武藤氏には鮮明に残っていて、今回全員の場合でそれと同じく、一輪の花を竹垣に添えることで、三橋氏への追悼と感謝を表しました。各竹垣に一輪の花が手向けられま



図9 ポートランド日本庭園内の散策の様子

した。

PJGの方は、三橋氏の写真を用意してくださり、共にこの完成した庭を眺めていただくことができました。その後、当協会を代表して私が三橋氏の思い出話と当協会の国際活動委員が三橋氏の遺志を継いだことも話させていただきました。三橋氏の残したものは計り知れず、PJGの全てのスタッフの胸に深く刻まれていると感じました。そして、追悼式を企画してくださった武藤氏とお花を用意してくださったPJG、

その全てを許可してくださった内山氏に心からの感謝をしたいと思えます。集合写真は三橋氏と一緒に撮影しました(図8)。

技と心セミナー指導4日目

9時より受講生全員とPJG内を2時間ほど散策し(図9)、その間、受講生から随時質問がありそれに答えました。石組についての質問が多く、テキストで学んだ内容と現地での相違について疑問を持っており、その都度、ステレオタイプの庭師にならないように、実戦で培ってきた生きた知識を受講生に丁寧に説明しました。

その後、教室に戻り、今回のセミナーでの質疑応答が行われました。私と武藤氏の各見解を答えました。

午後は、受講生からのセミナーに参加しての感想を聞かせていただきました。全体的に今回のセミナーに大変満足していました。全員初めての参加ではないのいろいろと課題を自身で持ちながら参加してきた様子で、感極まって涙する方も多くいました。

総括

今回、当協会からの派遣でポートランド日本庭園の「技と心セミナー」

に参加しました。内山氏をはじめ、関係者各位には心より感謝申し上げます。

初参加でしたが、受講生の志も高く、また年齢的にも円熟期を迎えている方もいましたが、まだまだこれから日本庭園をより専門的に学びたいという熱い姿勢を感じました。女性の受講生も多く、今後はもっと増えていくのだろうと感じました。

セミナー自体は日本の技能検定実技試験をベースにしましたが、基礎的な技術を何度も精度を上げて時間を縮めて、人数を減らしていくという処方は良いと感じました。

同じ課題に向き合うからこそ、次の参加までに課題を克服しようという意欲や、課題への達成感が得られると考えられます。また独創的だったり、講師によって内容が違ったりという、セミナーの「技術的なムラ(格差・差異)」を避けることができます。

このようなセミナーでは決して講師陣の技術を誇示してみせたり、能力を発揮するための場ではなく、あくまでも課題を受講生に考えさせながら、背中を押して背後から見守りつつ、正解に向かって歩ませるといった感覚です。

受講生からの質問等もかなり真理

に迫ったりもしたので、日本庭園を学問としてもしっかりと学び、日本の文化について、受講生に分かりやすく、そして押し売りしないように説明できる方の派遣がふさわしいと思いました。

まずは先方の文化を尊重し、受け入れ、その後どのようなようにして日本の文化を理解してもらえるかを考えられる人。これから先の諸外国で活動するための必要事項のように思います。(評議員・国際活動委員会副委員長)

海外研修会報告

曾根 将郎

全国1級造園施工管理技士の会(一造会)主催の海外研修会(団長・石井匡志氏)に講師として参加しました。

期間は2023(令和5)年10月7日(土)から23日(月)までの15日間。フランスのバリ近郊の日本庭園3カ所で、所在市の管理担当職員を対象に剪定講習を実施し、その後スイスに移り、個人邸での剪定指導をおこないました。

モレヴリエ東洋公園でのデモンストレーションは、現地の新聞に取り上げられ話題となりました。

詳細は、改めて報告いたします。

(国際活動委員会委員長)

2018

平成30年

日本庭園協会のあゆみ

- 1月14日 百周年記念連続講演会「清澄庭園再評価プロジェクト」第2回「岩崎家と清澄庭園」原徳三【清澄庭園 大正記念館】
- 1月20日 みんなの緑学「日本庭園の竹垣・植栽・管理技術と鑑賞術」内田均【緑と水の市民カレッジ】
- 1月21日 百周年記念連続講演会「清澄庭園再評価プロジェクト」第3回「清澄庭園の建築と庭園について」内田清蔵【清澄庭園 大正記念館】
- 2月3日 百周年記念連続講演会「清澄庭園再評価プロジェクト」第4回「清澄庭園と名石」松島義章【清澄庭園 大正記念館】
- 2月11日 東京都支部主催 百周年記念連続交歓講座（本部共催）へ人と自然を結ぶ文化の大地～人と庭の未来を開く～ 第1回「木を植えるのは何のため」高野義武【日比谷コンベンションホール】
- 3月16日 総会【明治神宮文化館】
役員改選 常務理事…加藤精一 理事…小沼康子・平井孝幸
- 3月30日 百周年記念連続講演会「清澄庭園再評価プロジェクト」第5回「清澄庭園の価値と庭木の変遷」亀山章【清澄庭園 大正記念館】
- 4月10日 百周年記念連続講演会「清澄庭園再評価プロジェクト」第6回「清澄庭園の魅力さをぐる2～近代庭園の原点～」龍居竹之介【清澄庭園 大正記念館】
- 4月15日 鑑賞研究委員会「講演会」「わが師飯田十基と親方学」平井孝幸【日本女子大学桜楓2号館】
- 4月29日 第10回 庭園技術連続基礎講座①「建物と庭」木股常精・「庭と建物」由比誠一郎【庭園実地見学 個人邸【武蔵野市】】
- 5月15～17日 伝統庭園技塾（百周年記念事業東日本大震災復興記念庭園築庭5年計画⑥）廣瀬慶寛塾長【覚照寺】
- 5月18日 東日本大震災復興記念庭園開園式【覚照寺】・記念式典・祝宴【パレスへいあん】
- 5月27日 第10回 庭園技術連続基礎講座②「建物と庭」高野保光・「庭と建物」本川勇【庭園実地見学 個人邸【練馬区】】
- 6月24日 第10回 庭園技術連続基礎講座③「建物と庭」高水謙二・「庭と建物」金綱重治【庭園実地見学 燈々庵【あきる野市】】
- 7月1日 鑑賞研究委員会「春季庭園見学会」小田原【鈴廣の庭園・松永記念館・古稀庵・清閑亭】



覚照寺本堂においての開園法要



平井孝幸氏(左から3人目)を囲むスタッフの方々



総会に先立って行われた全国評議員会

社会の動き

2月 平昌五輪で日本は冬季最多13メダル。フィギュア・羽生結弦は連覇

3月 森友文書改ざんで国会紛糾。佐川氏証人喚問

6月13日 「18歳成人」改正民法成立

6月29日 働き方改革関連法が成立

- 7月3～5日 百周年記念事業 浅草寺本坊「伝法院」庭園修復基礎研修【浅草寺本坊伝法院庭園】監修 龍居竹之介・文化財指定庭園保護協議会会長 亀山章
- 7月8日 東京都支部主催 百周年記念連続交歓講座（本部共催）〈人と自然を結ぶ文化の大地〉―人と庭の未来を開く― 第2回「地球環境に配慮した建築」金田正夫【清澄庭園 大正記念館】
- 7月29日 第10回 庭園技術連続基礎講座④「建物と庭・庭と建物」高橋良仁「庭園実地見学 医王山安養寺【大田区】」
- 8月18日 みんなの緑学「庭、いつもあこがれます」廣瀬慶寛【水と緑の市民カレッジ】
- 8月26日 第10回 庭園技術連続基礎講座⑤「建物と庭」井上洋介・「庭と建物」平井孝幸「庭園実地見学 個人邸【世田谷区】」
- 9月20～26日 国際活動委員会「ポートランド日本庭園 技と心セミナー講師派遣」三橋一夫・本川勇
- 9月22日 みんなの緑学「白洲正子が愛した庭」小沼康子【水と緑の市民カレッジ】
- 9月29日～10月3日 北米日本庭園協会大会総会「東日本大震災復興記念庭園築庭報告」横山英悦・八木沢裕樹【ポートランド日本庭園】
- 10月21日 百周年記念式典【日比谷松本楼】記念誌「これまでの百年 そしてこれから」発刊
- みんなの緑学 百周年記念講演会「日本庭園の未来」栗野隆、「日本庭園の世界展開」ステイブン・D・ブルーム【水と緑の市民カレッジ】
- 第12回日本庭園協会賞 新肇／審査員特別賞 内山貞文
- 日比谷ガーデニングショーに出展 東日本大震災復興記念庭園築庭のパネル展示
- 11月8・9日 鑑賞研究委員会「秋季見学会」「重森千青先生とめぐる京都モダンの庭」重森千青
- 11月10日 みんなの緑学「東日本大震災復興記念庭園・築庭を語る」菊地正樹【水と緑の市民カレッジ】
- 11月14日 日比谷公園ランドデザイン意見具申（近代公園発祥の地としての意義、原型を残し保存してゆくこと、名勝庭園への推薦も検討、東京グリーンアーカイブスの存続とさらなる充実を申し入れた）高橋康夫会長



日本庭園協会賞
審査員特別賞
内山貞文氏



日本庭園協会賞
新 肇氏



スティーブン・D・ブルーム氏の講演



栗野隆准教授の講演

11月23日 2025年万博、大阪で開催決定

10月11日 豊洲市場が開場

7月23日 埼玉・熊谷で国内最高気温41・1度

7月 西日本豪雨（5日から数日間、記録的な豪雨に襲われ）11府県で大雨特別警報が発令され、死者220人超。平成最悪の気象災害

6月30日 「潜伏キリシタン関連遺産」世界遺産に

2019

日本庭園協会のあゆみ

平成31年	令和元年
1月26・27日	5月19日
全国支部長連絡協議会 千葉県支部【ホテルマイステイズプレミア成田・成田山新勝寺・成田山公園】	鑑賞研究委員会 「春の日帰り庭園見学会」 千葉県【成田山公園・会員作品・佐倉旧堀田邸】
3月15日	5月26日
総会【明治神宮文化館】	第11回庭園技術連続基礎講座①「建物と庭」上野まゆみ・「庭と建物」米山拓未「庭園実地見学 個人邸【横浜市】」
3月17・21日	6月3・9日
東日本大震災復興記念庭園の庭木剪定研修、見学【石巻・気仙沼・陸前高田、小山元氏作庭、中尊寺・毛越寺】英国王立植物園キューガーデンの日本庭園担当職員2名の研修を宮城県支部（菊地正樹・小泉隆一・小山元）対応。	国際活動委員会 「ポートランド日本庭園 セミナー講師派遣」曾根将郎
4月5・7日	6月15・16日
伝統庭園技塾 「高木枝打ち剪定講習会」① 廣瀬慶寛塾長【覚照寺】	伝統庭園技塾 「高木枝打ち剪定講習会」② 廣瀬慶寛塾長【覚照寺】
4月14・15日	6月12・20日
講演会（静岡県支部・本部共催）「作庭書と遠江地方の庭園について」生熊里佳子・「わたしの庭造り」廣瀬慶寛・庭園見学会【摩訶耶寺・大福寺・龍潭寺】	国際活動委員会 シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園修復事業の現地作業（滝石組、石敷園路、剪定、ワークシヨップ他）三橋一夫・越智将人・高見紀雄・池田功・星宏海
	6月30日
	第11回庭園技術連続基礎講座②「建物と庭」菅谷輝男・「庭と建物」野村光宏「庭園実地見学 個人邸【新宿区】」
	7月28日
	第11回庭園技術連続基礎講座③「建物から見た庭 庭から見た建物」磯守「庭園実地見学 永明院【八王子市】」
	8月25日
	第11回庭園技術連続基礎講座④「建物から見た庭 庭から見た建物」鈴木康幸「庭園実地見学 旧本田家住宅、個人邸【国立市】」
	9月20・22日
	伝統庭園技塾 「高木枝打ち剪定講習会」③ 廣瀬慶寛塾長【覚照寺】
	9月28・29日
	鑑賞研究委員会 「初秋の新潟一泊見学会」（本部・新潟県支部共催）【貞観園、北方文化博物館、白山公園、燕喜館、旧斎藤家別邸、北方文化博物館別館、安吾風の館】



ジャクソンパーク内、オノ・ヨーコ作モニュメントの前で



高木枝打ち剪定講習会 吉田愛輝講師の説明を聞く塾生たち

社会の動き

5月1日 徳仁親王が第126代天皇に即位「令和」に改元

7月4日 九州豪雨 梅雨前線が停滞した影響で、九州を中心に記録的な豪雨が降った。河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、九州5県で77人が死亡

7月6日 「百舌鳥・古市古墳群―古代日本の墳墓群」が世界文化遺産に登録

7月18日 京都アニメーション放火、36人死亡

9月20日 ラグビーW杯日本大会開幕、日本8強

9月・10月 東日本で台風大雨被害、死者相次ぐ

2020

令和2年

9月29日

第11回庭園技術連続基礎講座⑤「建物と庭」佐藤偉仁・「庭と建物」新肇
佐藤偉仁「庭園実地見学 浜離宮恩賜庭園鷹の御茶屋【中央区】」

11月9日

みんなの緑学「現代日本庭園の巨匠たち」その作庭手法と庭園観第1回
岩城巨太郎・龍居竹之介・岩城隆・ホテルニューオータニ日本庭園見学
【緑と水の市民カレッジ】

11月16・17日

伝統庭園技塾「高木枝打ち剪定講習会」④ 廣瀬慶寛塾長【覚照寺】令和
元年度参加者20名の内、初級・基礎編修了証授与7名

11月24日

鑑賞研究委員会「講演会」(東京都支部共催) 戸田芳樹「日本庭園のも
うひとつの見方」デザインする立場から、作庭者のおもしろい・かたちを紐解
く【日本女子大桜楓2号館】

12月7日

特別講座・見学会「現代日本庭園の巨匠たちの庭を訪ねる」龍居竹之介・
荒川淳良【TKP麹町駅前会議室・ホテルニューオータニ日本庭園】

1月25・26日

全国支部長連絡協議会 四国支部【坂の上の雲ミュージアム・松山城】

2月23日

東京都支部主催 百周年記念連続交歓講座(本部共催)「人と自然を結ぶ文
化の大地」―人と庭の未来を開く― 第3回「心の豊かさ」と幸福とは」辰
野勇・藤森照信・養老猛司・亀山章【大手町日経ホール】

3月16日

東日本大震災復興記念庭園、日本造園学会誌『ランドスケープ作品集15』
10〜11ページのエイジング・マネージメント部門に掲載

3月18日

総会【東京四ツ谷・ビジネスセンター四谷】 新型コロナウイルス感染症の影響によ
り、役員6名で開催
役員改選 常務理事…小沼康子 理事…坂井昌子・清水哲也 監事…小泉
隆一

8月中旬

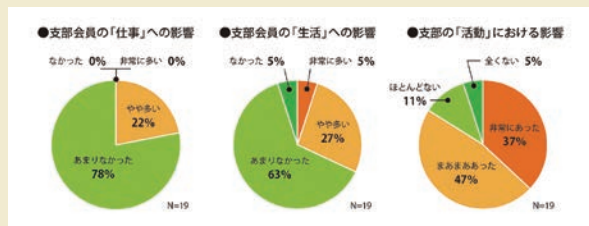
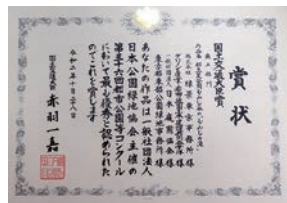
国際活動委員会 国土交通省「海外日本庭園再生プロジェクト」モスクワ
側より日本庭園の紹介と施工(修復)希望箇所の提示を受けたが、コロナ
感染症対応で派遣の取りやめ、オンラインで対応

10月15日

庭園協会ニュース102号に、鑑賞研究委員会の全会員を対象としたアン
ケート調査結果「庭園の魅力」をより多くの方へ
2〜4ページ、広報委員会では全国の支部長を対
象に行ったアンケート調査結果「コロナ禍を生き
抜く・影響と対策」4〜11ページに報告・発信

10月28日

日本公園緑地協会主催「第36回都市公園等コンク
ール(施工部門)」において、当協会は作品名『都
立芝公園もみじ谷の「もみじの滝」で「国土交通
大臣賞」を受賞



新型コロナウイルス感染症拡大による影響



3密を避け、マスク着用での総会



第3回連続交歓講座「心の豊かさ」と幸福とは」

10月1日 消費税率10%スタ
ート

10月31日 沖縄・首里城が焼失

11月13日 「桜を見る会」20年
は中止 安倍晋三首相「私の
判断」

2月28日 新型コロナで政府
が全国小中高の休校要請 全
小中高 休校要請
3月24日 東京五輪・パラ
1年延期
4月7日 感染拡大 緊急事
態宣言

8月31日 としまえん閉園、
94年の歴史に幕。その後
「ハリー・ポッター」のテーマ
パーク
9月16日 菅義偉首相誕生
新内閣発足

12月1日 流行語年間大賞に
「3密」

2021

令和3年

日本庭園協会のあゆみ

2月20日	全国支部長連絡協議会開催 菊地正樹連絡協議会長 コロナ禍のためオンライン会議
3月12日	総会【東京新宿・TKP新宿カンファレンスセンター】 新型コロナウイルス感染症の影響により、役員6名で開催
6月1日	欧州日本庭園協会設立記念イベント 東京農業大学国際日本庭園研究センター主催
9月11・12日	造園アカデミー会議のシンポジウムで、高橋康夫「東日本大震災からの復興」ポランテアによる復興記念庭園の施工に見る造園力」、横山英悦（宮城県支部）「東日本大震災復興記念庭園の主旨説明と解説」をオンラインで発表
10月1日	都市緑化機構とモスクワ日本庭園修復についての契約
10月31日	第12回庭園技術連続基礎講座（オンライン）①「煎茶精神と庭々そのかわりをさぐる」 加藤精一
11月13日	みんなの緑学「現代日本庭園の巨匠たち」その作庭技法と庭園観②第2回斎藤勝雄」和田新也、龍居竹之介【緑と水の市民カレッジ】
11月28日	第12回庭園技術連続基礎講座（オンライン）②「都立庭園の冬支度の意匠」北村葉子



第12回オンライン講演会 コロナ禍でマスク着用の
龍居竹之介名誉会長



3密に配慮した定期総会

社会の動き

2月17日 新型コロナウイルスのワクチン接種がスタート

7月3日 熱海で土石流 静岡県熱海市伊豆山地区の逢初川上流で大規模な土石流が発生し、川沿いに立ち並ぶ多数の住宅や住民らが流された

7月23日 東京五輪 最多58メダル、東京五輪「原則無観客」に。夏季五輪東京大会が、コロナ禍を理由とした史上初の1年延期を経て、7月23日に開幕した

7月26日 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録

7月27日 「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録

8月9日 変異株が猛威。「第5波」感染ついに2万人超す。東京五輪の宴のあとに訪れたのは流行「第5波」のピークだった。新型コロナウイルス感染拡大により、国内の1日の新規感染者数は8月13日に初めて2万人の大会に乗り、20日には最多の2万5975人

9月28日 新型コロナウイルス感染者減少、緊急事態宣言や重点措置が半年ぶり全面解除

緊急事態宣言 まん延防止措置「30日ですべて解除」

9月29日 自民総裁に岸田文雄氏 首相就任

11月29日 オミクロン型対応のため外国人新規入国を停止

2022

令和4年

1月22日	全国支部長連絡協議会開催（オンライン） 新潟県支部
2月2日	日本造園学会「日本庭園の『こころ』と『わざ』」に関する研究推進委員会の「わざ」部会で「わざの体系ツリー（提案）」の作成に参加
3月11日	総会 初の試みとしてオンラインで開催 役員改選 理事：北村均・曾根将郎
5月13日	みんなの緑学 「現代日本庭園の巨匠たち」その作庭手法と庭園観（第3回 飯田十基） 龍居竹之介 【緑と水の市民カレッジ】
5月18日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第1回 【ワイム貸会議室荻窪】
5月29日	第13回 庭園技術連続基礎講座（オンライン）①「庭に向かう私の姿勢」 桃井賢二
6月1日	欧州日本庭園協会設立記念イベント 東京農業大学国際日本庭園研究センター主催
6月15日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第2回 【ワイム貸会議室荻窪】
6月26日	第13回 庭園技術連続基礎講座（オンライン）②「庭に向かう私の姿勢」 木目田裕一
7月2・3日	全国支部長連絡協議会・本部共催 「新潟県庭園視察研修会」新潟県支部 【新発田市清水園・北方文化博物館・白山公園・燕喜館・旧斎藤家別邸・北方文化博物館分館・安吾風の館】
7月22日（8月10日）	国際活動委員会 「ポर्टランド日本庭園 技と心セミナー講師派遣・大阪ガーデン視察・北米日本庭園協会地方大会参加」 細野達哉
7月31日	第13回 庭園技術連続基礎講座（オンライン）③「庭に向かう私の姿勢」 廣瀬慶寛
8月28日	第13回 庭園技術連続基礎講座（オンライン）④「庭に向かう私の姿勢」 仙波太郎
9月21日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第3回 【ワイム貸会議室荻窪】
9月25日	第13回 庭園技術連続基礎講座（オンライン）⑤「庭に向かう私の姿勢」 ⑤石亀靖、⑥仲佐修二
10月7日	みんなの緑学 「現代日本庭園の巨匠たち」その作庭手法と庭園観（第4回 小形研三） 龍居竹之介 【緑と水の市民カレッジ】



ポर्टランド日本庭園 技と心セミナー講師派遣



北方文化博物館 マスクをしながら説明を聞く参加者

2月4日	北京五輪 冬季最多メダル 開幕した第24回冬季五輪北京大会で、日本選手団は、冬季大会で最多となる計18個（金3個、銀6個、銅9個）のメダルを獲得
2月24日	ロシアがウクライナ侵略
4月23日	知床観光船 沈没事故
7月8日	安倍晋三元首相撃たれ死亡 奈良市の近鉄大和西大寺駅前で参院選の街頭演説中、背後から近づいた無職の男に銃撃され、死亡した
8月27日	新型コロナの感染者 世界全体で6億人超える
9月（12月）	旧統一教会 政治問題化
10月20日	円安 1ドル150円突破

2023

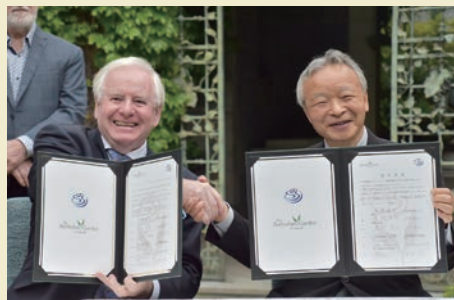
令和5年

日本庭園協会のあゆみ

10月19日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第4回【ワイム貸会議室荻窪】および殿ヶ谷戸庭園見学
11月16日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第5回【ワイム貸会議室荻窪】
11月24日	みんなの緑学「長尾欽弥とよねゝその人物と本宅・別荘の庭園を巡って」加藤映【緑と水の市民カレッジ】
12月15日	鑑賞研究委員会「清澄庭園鑑賞会」「清澄庭園／明治の庭のおいたち」龍居竹之介、煎茶点前披露 加藤精一、清澄庭園逍遙 北村均
12月21日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第6回【ワイム貸会議室荻窪】および大田黒公園見学
1月18日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第7回【ワイム貸会議室荻窪】（龍居先生都合により欠席、龍居先生の連続基礎講座のビデオを流す）
1月28日	全国支部長連絡協議会開催（オンライン） 近畿支部
1月30日	特許庁に「日本庭園協会」の商標について情報提供提出
2月15日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第8回【ワイム貸会議室荻窪】（龍居先生都合により欠席、龍居先生の連続基礎講座のビデオを流す）
2月27日	日本庭園協会SNS（Twitter・Instagram）アカウント開設 いずれもアカウント名は@niteikyoku
3月10日	総会【清澄庭園 大正記念館】 役員補欠選任 副会長…廣瀬慶寛 常務理事…清水哲也 理事…石川治吉
3月15日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第9回【ワイム貸会議室荻窪】（龍居先生都合により欠席、日比谷公園再生整備計画について説明）
4月6日	龍居竹之介名誉会長ロングラン講演会「日本の庭を生活文化から眺めて」第10回 伝法院庭園見学および茶話会【浅草寺会議室】
4月25日	オーストラリア庭園協議会（AGC）と日本庭園協会 協定覚書の調印【オーストラリア大使館】
4月27日	みんなの緑学「長尾欽弥とよね・庭園と美術品／秘められた長尾家の遺産」加藤映氏【水と緑の市民カレッジ】



京都庭園見学会 2023.5.14

オーストラリア庭園協議会との協定覚書交換
(左: グラハム・ロス氏、右: 高橋康夫) 2023.4.25

清澄庭園鑑賞会 加藤精一氏のお点前 2022.12.15

社会の動き

11月25日 世界人口80億人

12月1日 サッカーW杯日本代表16強

3月27日 文化庁が京都へ移転 東京・霞が関から京都市内の新庁舎に移転し、業務を始めた。中央省庁の地方移転は明治以来初めて

5月13・14日	全国支部長連絡協議会・本部共催 京都庭園見学会 近畿支部【円山公園・ひらまつ高台寺十牛庵庭園・建仁寺・霊源院両足院 霊洞院】
5月28日	第14回庭園技術連続基礎講座〈オンライン〉①「庭に向かう私の姿勢」高見紀雄
6月6日	みんなの緑学 「浅草寺・伝法院庭園における修復工事について」 藤元裕二【緑と水の市民カレッジ】
6月25日	第14回庭園技術連続基礎講座〈オンライン〉②「庭に向かう私の姿勢」伊久美和秀
7月9日	鑑賞研究委員会 105周年記念事業「清澄庭園講演会」「清澄庭園講演会」「井下清らの技術集団がつくり上げた公共の日本庭園としての清澄庭園の文化的価値・技術的価値」高橋康夫、「清澄庭園の現状と今後の課題」管理者から見た清澄庭園」中山なつ希【清澄庭園 大正記念館】
7月9・16日	国際活動委員会「ポートランド日本庭園 技と心セミナー講師派遣」星宏海
7月30日	第14回庭園技術連続基礎講座〈オンライン〉③「庭に向かう私の姿勢」丸山道隆
7月31日	「水の仕事―東京都立の文化財庭園から見る池泉の『わざ』」高橋康夫、小沼康子 日本造園学会ランドスケープ研究87(2) 特集「日本庭園の継承と発展」124～125ページに掲載
8月27日	第14回庭園技術連続基礎講座〈オンライン〉④「庭に向かう私の姿勢」山田祐司
9月2・4日	伝統庭園技塾 105周年記念事業「掛川市指定文化財松ヶ岡(旧山崎家住宅)庭園修復基礎研修」清水哲也塾長【掛川市松ヶ岡】
9月16・17日	観賞研究委員会「庭園見学会」105周年記念事業「東日本大震災復興記念庭園観賞会」竹亭大和別邸庭園・庭正パーク(キャンプ場・ちびっこ広場・五右衛門風呂の庭・ドッグランの庭)【宮城県大和町】
9月24日	第14回庭園技術連続基礎講座〈オンライン〉⑤「庭に向かう私の姿勢」小泉隆一
10月5日	みんなの緑学 105周年記念事業「孤高の庭師 田中泰阿弥の庭園観」三鍋光夫【緑と水の市民カレッジ】
10月14日	みんなの緑学 105周年記念事業「庭園協会が誕生していなければ、東京農業大学造園科学科は存在していなかった」上原敬二、龍居松之助、井下清の造園への思いと情熱」栗野隆【緑と水の市民カレッジ】
10月26日	臨時総会「清澄庭園及び日比谷公園を国指定名勝に」意見書発議を協会総意として意思決定 105周年記念式典【清澄庭園 大正記念館】



臨時総会および創立105周年記念式典 2023.10.26



東日本大震災復興記念庭園視察 2023.9.16



松ヶ岡(旧山崎家住宅)庭園修復研修会 2023.9.4

5月8日	新型コロナウイルスが「5類」へ移行
5月16日	4年ぶり開催、京都・葵祭
9月	記録的猛暑、夏の平均気温過去最高を更新
10月1日	消費税のインボイス制度開始
11月	各地でクマ被害、死者過去最多

一般社団法人日本庭園協会は、2023（令和5）年10月26日（木）午前10時30分より東京都江東区の清澄庭園・大正記念館において臨時総会を開催した。

【臨時総会】午前10時30分

司会＝廣瀬慶寛副会長

総会員526名中、出席44名、委任状234名、計278名で定款第19条により成立。内田均副会長の開会の辞。

高橋康夫会長の挨拶に続き、議長席に付き、議事録作成者に小沼康子常務理事、議事録署名人に上野周三理事、平井孝幸理事を指名し議事に入る。

○第一号議案「令和5年度現況報告等」

現況報告＝加藤精一総務委員長
本部事業報告＝

加藤精一総務委員長／
加藤新一郎財務委員長／
清水哲也技術委員長／
内田均鑑賞研究委員長／
小沼康子広報委員長／

1 現況（令和5年9月20日現在）

(1)事務所：〒169・0051

東京都新宿区西早稲田1・6・3

フェリオ西早稲田301号

電話：03（3204）0595

E-mail gsj20@m7.dion.ne.jp

URL <https://nitenkyou.org/>

(2) 会員数（カッコ内は前年比）

正会員499名（6増）

特別会員／名誉会長・会員13名（1増）

維持会員11社（1増）

学生会員3名（1増）

総会員数526名（9増）

2 事業の概要

本部事業として、総務事業、財務事業、広報事業、鑑賞研究事業、技術事業、国際活動事業について、各委員長からの中間報告がなされた（国際活動事業については総務委員長が代理で報告）。

○第二号議案「清澄庭園を国指定名勝に推挙する決議（主旨）の件」

事業説明＝加藤（精）総務委員長
清澄庭園を国指定名勝に推挙する決議（主旨）案

清澄庭園は都立庭園9カ所の一つ

であり、東京都江東区清澄に所在し、東京都の名勝に指定されている。1932（昭和7）年に開園し、面積は37434・32㎡である。

泉水、築山、枯山水を主体にした「回遊式林泉庭園」で、主な見どころは三つの中島を配した大泉水、大石を配した磯渡り、富士山を模した築山、園内各所に日本各地から集めた名石、大泉水に突き出した数寄屋造りの涼亭などである。

清澄庭園の前身は明治維新後の1878（明治11）年に、岩崎彌太郎が、荒廃していた久世大和守などの大名屋敷を買い取り、社員の慰安や貴賓を招待する場所として作庭し、

1880（明治13）年に「深川親睦園（清澄園とも呼ばれた）」と名付け開園した庭園である。彌太郎没後は弟の彌之助が洋館、和館を整備するなど大改造を行い、隅田川の水を引いた大泉水をつくり、全国から取り寄せた名石を配して、明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」が完成した。

深川親睦園は1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災で大きな被害を受けたが、庭園周囲の樹木と大泉水により災害時の避難場

所としての役割を果たし、約1万人もの人命を救った。岩崎家は、震災後、復興のために必要な材木を供給する目的で、庭園の西側を貯木場及び製材所としたが、被害が比較的小なかつた東側を、庭園の持つ防災機能を重視し、翌1924（大正13）年に公園用地として東京市に寄付した。

東京市では多くの死者を出した両国被服廠跡、被害に遭った公園や庭園及び大正13年1月に皇室から上野公園、芝離宮、猿江貯木場の三大御料地を下賜されており、予算、人手、資材が不足する中で直営を主体とする庭園復旧工事を直ちに行い、岩崎家から受領した庭園を整備した。

整備に当たっては、深川親睦園の遺構を極力生かしながら、新しい庭園として見せるための技術的工夫を行い、建物の位置を変えることや西大泉水の境に造園的演出を行い、新技術である擬木を導入するなど東京市の造園技術をいかに発揮し、深川親睦園の東側造園空間を、新たな独立した庭園空間として生み出したのである。

清澄庭園は1932（昭和7）年に東京市の公園として開園した。深

川親睦園時代は清澄園ともいわれていたが、園名を清澄庭園とし、深川親睦園という近代庭園の先駆けである名園の一部を残しながらコンパクトにまとめた新しい庭園として市民に開放され、岩崎彌太郎のつくった庭園が完全に消滅することなく主景観を残して現在も存続することになったのである。

また、関東大震災時における防災効果を発揮した庭園が残ること、震災の悲惨な教訓を後世に伝えることができるなど防災意識を市民に普及啓発する効果がある見本となったのである。さらに、東京市の造園技術者の技術力の賜物である洞窟などの石組の実例が残されることになった。そして、清澄庭園は東京大空襲時に防災効果を発揮して、庭園に避難してきた多くの市民を救ったのである。

都立9庭園のうち、清澄庭園以外はすべて国指定名勝や国指定重要文化財となっているが、清澄庭園だけが東京都指定名勝である（後発の旧古河庭園や殿ヶ谷戸庭園が国指定名勝になっているにもかかわらず）。

歴史上重要な庭園（明治維新後の近代的庭園、関東大震災・東京大空襲などを乗り越えた）であり、しかも東京市造園技術者の技術的遺構が

残されている唯一の庭園である。国指定文化財とすべき価値があるかどうかについては、創立100周年記念事業の一環として日本庭園協会が主催した「清澄庭園再評価プロジェクト連続講演会」において十分に国指定名勝としての価値があることが実証されている。

よって、日本庭園協会創立105周年を期して率先して清澄庭園の文化財としての価値を行政機関等関係者に周知し、国指定史跡・名勝に推挙するものである。

○第三号議案「日比谷公園を国指定名勝に推挙する決議（主旨）の件」

事業説明Ⅱ加藤（精）総務委員長
日比谷公園を国指定名勝に推挙する決議（趣旨）案

1903（明治36）年に開園された日比谷公園は日本で最初の計画的に造成された近代的な洋風公園であり、当初の計画においては中央公園としての国家的プロジェクトであった。現在も丸の内オフィス街と霞ヶ関官庁街の間に位置しており、都心のオアシスとして多くの利用者に愛されている。今年で開園120年を迎えた日本を代表する都市公園である。

太政官布達により日本で最初に公園ができた年は1873（明治6）年

で、開設された公園は25カ所。東京では上野公園など5カ所が開園された。

これらの公園は江戸時代から続く庭園や庶民の花見などで賑わった名所であり、本格的な西洋風の公園は出現していなかった。

日比谷公園は欧化政策を進めていた明治新政府の肝いりで計画された公園であったが、当時の関係者は西洋の公園を見たことがない者がほとんどであり、「公園」とは何かを真剣に考えた時代でもあった。したがって、日比谷公園が計画されてから誕生までには様々な曲折があり、新しい概念である「公園」が市民に提示され、定着するには、先人たちが多くの困難（生みの苦しみ）を経て乗り越えてきたのである。

日比谷公園計画案には、公園の設計案として日本園芸会案や辰野金吾案などが提出されたが何れも議会の承認を得られなかった。そして最後に登場したのが本多静六（日本庭園協会初代会長）案であった。

本多博士にとっても公園の設計は初めてであり、1890（明治23）年からのドイツ留学時に西洋の公園を見た経験を活かし、ドイツの公園を範としながらも一部には日本庭園の手法も加えて総合的近代公園の設計案とした。

公園は入口門を6カ所設け、門を大園路で結び東南、西南、東北、西北の4部に区画した。運動場、小音楽堂、樹林地帯、ツツジ園、雲形池を設け、北部は日本庭園予定地とし、とりあえず残土を盛って小さい丘を築いた。

東北部の有楽門近くには旧江戸城の石垣土塁をそのまま残して心字池をつくり、日本風の趣を漂わせ、池には噴水を設けた。池の北側の公会堂敷地には暫定的にリボン式花壇を設けたが現在に至っている。

完成した日比谷公園は、市民に「3つの洋」である洋花、洋楽、洋食を提供する公園文化発祥の礎となった。その後、図書館、公会堂、音楽堂などが設置され市民のいこいの場所として親しまれるとともに、日本の初代総理大臣伊藤博文の国葬など国家的行事が催された。

太平洋戦争が始まると高射砲陣地が置かれ、樹木が伐採され、園地は畑となり、金属回収による外柵等の撤去がおこなわれた。

戦後は連合軍に接収され、解除後1951（昭和26）年頃から復旧を開始し、1961（昭和36）年には戦災復興の完成を記念する直径30m、主柱12mの大噴水が設置され、公園の新しいシンボルとなり、現在でも多くの市民に親しまれているか

けがえのない公園である。

日本で最初に計画的に造成された近代的洋風公園である日比谷公園は「公園の質において且又、日本の都市公園史において、近代における最初にして最大の収穫であった事はいうまでもなく、これによって都会人は公園の必要性を目のあたりに意識し同時にこれが東京の新名所となつて市内各所の公園の新設および増設の新たな意欲を盛り上げたばかりでなく、日本の都市における公園造成の機運を醸成する機縁を作ったのであった」(『東京の公園140年』より)

とあるように、それはまさに公園文化の礎であり、造園人にとっては「聖地」であるというべき公園である。

しかも現在も開園当初の遺構が多く残されており、またその後の歴史の証人でもある施設が存続している現状を踏まえれば、本多静六博士が設計した日比谷公園は、国指定史跡及び名勝に相応しいものである。

ちなみにすでに国指定名勝に指定されている公園は南湖公園、常磐公園、哲学堂公園、山手公園、白山公園、再度公園(兵庫県六甲)、奈良公園、円山公園、鞆公園(広島県)、平和記念公園、琴弾公園(香川県)。

また、2012(平成24)年6月刊行の『近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書』(近代の庭園・公園等の調査に関する検討会 文化庁文化財部記念物課)によれば、日比谷公園は「重要な文化財価値のある公園」と位置付けられている。

以上を踏まえ、日比谷公園は日本初の近代的洋風公園であり、現在も日本を代表する都市公園と位置付けられており、この日比谷公園開園120周年の年に、日比谷公園の設計者本多静六博士が初代会長であり創立105周年を迎える日本庭園協会が、この期にあたり、率先して行政機関等の関係者に日比谷公園の文化財としての価値を周知し、国指定史跡・名勝に推挙するものである。

趣旨説明後、質問等を求めたところ、水本隆信氏から文化財指定に関して提言があり十分に配慮するとした。

以上、すべての議案は審議の結果、原案のとおりで承認された。

令和5年度(一社)日本庭園協会臨時総会は内田副会長の閉会の辞により、無事終了した。

総会終了後、昼食を挟んで創立105周年記念式典が開催された。

創立105周年記念式典・祝賀会

一般社団法人日本庭園協会は、2023(令和5)年10月26日(木)午後1時より東京都江東区の清澄庭

園・大正記念館において創立105周年記念式典を開催した。

【記念式典】午後1時

司会Ⅱ廣瀬慶寛副会長

内田均副会長の開会の辞、高橋康夫会長の主催者挨拶に続き、表彰式が執り行われた。

表彰式では、長年にわたり当協会への貢献を賜った会員が表彰された。

①永年会員表彰(40年以上)

有澤二三明 本川勇 平井孝幸

福永邦昭 尾見裕 内田均

土井直紀 渡邊学 田中省二

田中康道 中村寛 石川昇造

石井敬明 神田松太郎 上野周三

小笠原隆夫 柴田正文 三宅秀俊

榊原八朗 高尾図志雄 後藤剛助

栢英武 加藤健 沖津昭治

伊藤郁雄 廣瀬慶寛

②長期支部長表彰(10年以上)

加藤新一郎 栗野幹夫 飛田幸男

殿井正敏 石亀靖 水本隆信

高見紀雄 高橋良仁

③長期役員表彰(10年以上)

菊地正樹 山田拓広 野村脩

④特別表彰

小口基實 三鍋光夫 宮城県支部

外山正幸 河西力

(※表彰が重なった場合は一つについての表彰とした)

受賞者を代表して野村脩氏より受賞の挨拶があった(36ページ参照)。

続いて、当協会の協力者として、特に庭園協会ニュースの製作やホームページの運営などにご尽力いただいている由比まゆみ氏に感謝状が授与され、由比氏より挨拶があった。

結びに、龍居竹之介名誉会長によるビデオメッセージが放映された(内容は号を改めてご紹介する)。

以上、式典は和やかな雰囲気の中で執り行われ、内田副会長の閉会の辞により終了した。

記念式典後、参加者は大正記念館前で記念写真に納まり、北村均理事の案内で清澄庭園を散策した。

続き同会場にて祝賀会が開かれた。

【記念祝賀会】午後4時

司会Ⅱ清水技術委員長

加藤(新)財務委員長の開会の辞、

高橋会長の主催者挨拶により祝賀会は始まった。上野周三理事の乾杯の後、参加者は各受賞者への祝意を表しつつ久々の対面による歓談を楽しんだ。

宴もたけなわで受賞者によるスピーチで盛り上がった中、米山拓未神奈川県支部長によつて中締め、廣瀬副会長の閉会の辞の後、創立105周年記念祝会は三々五々の散会となった。

「女性造園家」杉尾邦江のあゆみ(1936-2023)

たついのすけ
龍居 竹之介



造園界にもコンサルタントは多い。

その中でもブレッ

ク研究所は、海外にも雄飛する大きさである。杉尾邦江さんは、厚生省の同期生であった夫君の杉尾伸太郎さんとともにその創立者で、2代目社長を経て会長となられたが、2023(令和5)年5月26日に87歳で亡くなられた。本書は故人の著作を主体としたその生涯の記録である。

夫君ともども造園界での活躍飛躍ぶりはよく知られているが、本書によつてまた改めて邦江さんの常に現在を見据えつつ将来を洞察できる類まれな能力、そしてそれらを駆使して遠大な計画を樹立、しかも実現にまでもつて行く行動力まで再確認させられ、ただただ脱帽であった。

戦時中、東京から縁故疎開した秩父での小学校低学年時期には、毎日4kmの山道を登下校して頑張り屋ぶりを示すと思えば、戦後、夫君の関係先の東京劇場暮らしの時代には歌舞伎、レビューの舞台から駐留軍のキャンプまでを遊び場にして、東西の芸能に接し、その舞台にも立った。

新制中学を自由奔放にのびのびと育った邦江さんだったが、新宿高校に進むと青春奈落に落ち込んでしまう。その中で見つけた限りなく自由で、自分自身を取り戻せる環境としての「山」「自然」を知つてその虜となったのだ。それとともに厚生省に国立公園のレンジャーという職の存在を知り、しかも女性の入省可能まで確認すると東京農業大学を経て見事に入省、女性レンジャー第1号となる。ついでながら、1974(昭和49)年にコンサルタントとして独立するため取得した建設部門の技術士も女性第1号だった。

そして子供時代からの夢であった海外暮らしを果たしたのが49歳のとき(1987(昭和62)年)で、ニューヨークへ留学、同地を中心とするイギリスの植民地都市における緑(公園緑地帯)を探り、後に学位論文として成果をあげる一方、同地の庭園にも関心を抱き、著した「女性たちの庭」は日本のガーデンブームの火付け役ともなっている。

その視野はさらに広がり、「造園のアプローチには人間の世界と自然を

つなぐものがあるが、世界遺産における「文化的景観」の捉え方がまさに重なる」との考察も加える。そこから活動はユネスコ傘下のイコモスでの世界遺産関係へと広がり、その「文化の道」委員会日本代表や国内委員会副会長をつとめ、自身は「朝鮮通信使のたどった道(ルート)」の名称で文化の道としての認定の検討にもつながり、ひいてはブレックの仕事の幅もこれらの進展に準じて広がってきた。

こうした反面、昭和40年代中頃からは社交ダンスに強くひかれ、多くの高名な師に教えを求めて亡くなる前年までレッスンに没頭したとか。その方面での少女時代につちかわれた芸魂もまた不朽であった。

こんなに一生を目標通りに走り、すべてを完全燃焼した人の存在を私は知らない。

本書のサブタイトルは「天職は自由に生きること」だが、正に杉尾邦江という人の生き方そのままだと思う。しかし単に自由なのでなく、造園という核を山への思いから広義にとらえ、世界の文化にまで昇華拡大した業績はご立派である。

また将来への造園の可能性も強く拡大してくれた感じも私は強く受けた。この偉大な志をしつかり継いでくれる人の造園界への登場を、私は心底、待ちたいと、強く強く願うばかりである。
(名誉会長)

付記 杉尾邦江さんのご主人、杉尾伸太郎さんから、本書を10冊、「ご希望の方に進呈します」といっていただきます。ご希望の方は当協会事務局までメール・FAX・ハガキでお申し込みください。先着順で進呈(お1人1冊)します。



『女性造園家 杉尾邦江のあゆみ(1936-2023) - 天職は自由に生きること』株式会社ブレック研究所、2023.9.23

本部たより

●日本庭園協会の英語表記

11月22日(水)、日本庭園協会の英語名「The Garden Society of Japan」が商標登録されました。

海外への情報発信の際にはご活用ください。

総務委員会

創立105周年記念式典は、10月26日(木)に、盛況のうちに開催されました。詳細は本号を参照ください。
2024年度定期総会は、3月15日(金) 清澄庭園大正記念館にて開催します。改めてお知らせします。



創立105周年記念式典 受賞者代表・野村脩氏の挨拶

財務委員会

●会費納入のお願い

当協会は、会員の皆様の会費によって運営しております。2023年度の会費納入がお済みでない方は、速やかな納入をお願いいたします。

技術委員会

●掛川市指定文化財 松ヶ岡(旧山崎家住宅) 庭園修復基礎研修会

9月2日(土)から4日(月)、掛川市松ヶ岡庭園において開催しました。

本研修会は、かねてより龍居竹之介名誉教授を通して掛川市から協力依頼のあった掛川市指定文化財 松ヶ岡(旧山崎家住宅)「庭園の修復を創立105周年記念事業と位置づけ、会員の技術向上、本部・支部の連携強化などを意図して2023年度伝統庭園技藝として開催しました。地元の静岡県支部をはじめ本部会員に呼び掛けたところ、3日間で延べ114名に参加いただきました。

今回の研修は、樹木手入れと石材や石造物などの調査を中心に庭園の実態を把握しました。今後、現況及び史資料の調査を重ねて庭園の価値を明らかにしつつ、伝統庭園技藝として掛川市の修復整備事業に協力してまいります。今年度も研修会開催の予定です。会員の皆様の参加をお待ちしております。

●庭園技術連続基礎講座

2009(平成21)年度から始まった本講座は2023(令和5)年度で第14回となりました。2021(令和3)年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により対面を控え

てオンライン講座として開催しました。オンライン講座のメリットは、場所を限らず全国の会員に講師として登壇いただけること、どこにいても受講できることです。しかし、物足りさもあります。対面での講義や直接庭を拝見する臨場感です。

そこで、本年度はオンラインと対面双方のメリットを生かした講座を企画します。ご期待ください。

鑑賞研究委員会

当協会は、庭園、公園、園芸及び風致に関する研究と技術並びにこれに関する趣味の普及、及び発達を図ることを目的としています。その目的を達するために一番の事業として挙げられているのが、庭園、公園、園芸、風致等の鑑賞です。鑑賞研究委員会の企画や運営にご協力いただける方は事務局まで一報ください。

国際活動委員会

国際活動委員会の活動に参加・協力いただける会員募集の呼びかけに多くの方々からお返事をいただきました。ありがとうございます。

今回の募集結果を踏まえ、今後、ますます活発となる世界の国々からの要請や問い合わせなどに積極的に答えるべく、体制を整えて参ります。募集は継続中です。引き続きの応募をお待ちしております。

広報委員会

年4回発行の「庭園協会ニュース」は、「会員の声が聞こえる、顔が見える広報誌」をスローガンに企画・編集しています。さらに充実した内容とするため、企画・編集作業の協力者を募集します。主に情報提供や編集・校正で、ほぼオンラインによる作業です。ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

新入会員・氏名(住所)

(2023(令和5)年10月1日から12月31日)維持会員・株式会社 DESIGN PLACE 森本庭苑舎(神奈川県)

編集後記

★藤元裕二氏の『浅草寺・伝法院庭園における修復工事について』は、庭に携わる人が心に留めるべきことが述べられており、図版も豊富で興味深く読みつつの編集作業でした。(わ)

★「こぼれ話」、開園120年、日比谷公園の「鶴の噴水」と創建1400年の浅草寺・お水屋「龍神像」は、双方とも津田信夫鑄造によるもので、日比谷公園の開園と同じ頃の制作。置かれた場所は違えど東京の苦難と歓喜を見てきたかと思うと感慨深い。(や)

編集担当…小沼康子/内田均/中山なつ希
/酒井和佳子
本文デザイン…由比まゆみ